ONKYO®

AV センター

SA-907FX

取扱説明書

お買い上げいただきまして、ありがとうございます。
ご使用前にこの「取扱説明書」をよくお読みいただき、正しくお使いください。
お読みになったあとは、いつでも見られる所に保証書、オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内とともに大切に保管してください。

主な特長

■ 3チャンネル出力アンプ
UWA-205など、オンキヨー製3.1CHスピーカーシステムと組み合わせて6.1チャンネル再生可能

■ ドルビー*デジタル、ドルビープロロジックII、ドルビープロロジックIIx、ドルビーデジタルEXサラウンド再生可能

■ DTS**、DTS-ES Discrete(ディスクリート) 6.1、DTS-ES Matrix(マトリックス) 6.1、DTS Neo(ネオ) : 6、DTS 96/24サラウンド再生可能

■ 2チャンネルや3チャンネルでもサラウンド再生を体感できるシアターディメンショナルリスニングモード搭載

■ MPEG(エムペグ)-2 AAC再生可能

■ 5.1マルチチャンネル入力端子装備、オンキヨー製スーパーオーディオCD&DVDオーディオ/ビデオプレーヤーDV-SP205FXなどとの組み合わせで、マルチチャンネル再生可能

■ デジタル入力端子光3系統装備

■ 再生周波数の広帯域化を図るWRAT（ワイド・レンジ・アンプリファイアー・テクノロジー）

■ 192kHz/24bit D/Aコンバーター搭載

■ 信号とノイズ領域との近接を回避して聴感上のS/Nを向上させるオプティマム・ゲイン・ボリューム回路

■ ダウンミックスによるフロントL/Rチャンネルのダイナミックレンジの減少や、S/N劣化を防ぐ技術「ノン・スケーリング・コンフィグレーション」採用の回路

■ 付属のマイクで簡単スピーカー設定

■ 他機の操作を可能にするプリプログラムド機能搭載のリモコン付属
DVDレコーダー操作も可能（シャープ/ソニー/東芝/パイオニア/パナソニック製）

* ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。
“Dolby”、“ドルビー”、“Pro Logic” およびダブルD記号は、ドルビーラボラトリーズの商標です。

** 本機は、デジタル・シアター・システムズ社からのライセンスに基づき製造されています。
“DTS”、“DTS 96/24”、“DTS-ES”および“Neo : 6”は、デジタル・シアター・システムズ社の商標です。

AAC パテントマーキング
Pat.5,848,391 5,291,557 5,451,954 5 400 433 5,222,189 5,357,594 5 752 225
5,394,473 5,583,962 5,274,740 5,633,981 5 297 236 4,914,701 5,235,671
07/640,550 5,579,430 08/678,666 98/03037 97/02875 97/02874 98/03036
5,227,788 5,285,498 5,481,614 5,592,584 5,781,888 08/039,478 08/211,547
5,703,999 08/557,046 08/894,844 5,299,238 5,299,239 5,299,240 5,197,087
5,490,170 5,264,846 5,268,685 5,375,189 5,581,654 5,548,574 5,717,821

カタログおよび包装箱などに表示されている型名の最後にあるアルファベットは、製品の色を表す記号です。色は異なっても操作方法は同じです。

音のエチケット
楽しい映画や音楽も、時間と場所によっては気になるものです。
隣り近所への配慮を十分にしましょう。特に静かな夜間には窓を閉めたり、
ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。
お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

目次

はじめに

接続をする

初期設定をする

こんなこともできます

設定をする（応用編）

映画・音楽を鑑賞する（基本編）

こんなこともできます

映画・音楽を鑑賞する（応用編）

映画・音楽を鑑賞する（リスニングモード編）

こんなこともできます

設定をする（リスニングモード編）

録音する

接続した製品を本機のリモコンで操作する

その他

オーディオ機器の正しい使いかた

オーディオ機器を安全にお使いいただくため、ご使用の前に必ずお読みください。

絵表示について

この「取扱説明書」および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠警告	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
⚠注意	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例

△記号は注意（警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。図の中に具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。

⊘記号は禁止の行為であることを告げるものです。図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。
図の中や近傍に具体的な指示内容（左上図の場合は電源プラグをコンセントから抜いてください）が描かれています。

⚠警告

■ 故障したままの使用はしない

電源プラグをコンセントから抜いてください

●万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに本機の電源プラグをコンセントから抜いてください。
煙が出なくなるのを確認して、販売店に修理を依頼してください。

■ 絶対に裏ぶた、カバーははずさない、改造しない

分解禁止

●本機の裏ぶた、カバーは絶対にはずさないでください。内部には電圧の高い部分があり、感電の原因となります。内部の点検・整備・修理は販売店に依頼してください。
●本機を分解、改造しないでください。火災・感電の原因となります。

■ 100V以外の電圧で使用しない

●本機を使用できるのは日本国内のみです。
●表示された電源電圧（交流100ボルト）以外の電圧や船舶などの直流（DC）電源には絶対に接続しないでください。火災・感電の原因となります。

■ 放熱を妨げない

●本機の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となります。
本機には内部の温度上昇を防ぐため、ケースの上部や底部などに通風孔があけてあります。
次の点に気をつけてご使用ください。
- 本機を逆さまや横倒しにして使用しないでください。
- 本機を、専用ラック以外の押し入れや本箱など風通しの悪い狭い所に押し込んで使用しないでください。
- テーブルクロスをかけたり、じゅうたん、ふとんの上に置いて使用しないでください。
- 本機を設置する場合は、壁から10cm以上の間隔をおいてください。また、放熱をよくするために、他の機器との間は、少し離して置いてください。ラックなどに入れるときは、機器の天面、横から2cm以上、背面から10cm以上のすきまをあけてください。

■ 水のかかるところに置かない

水場での
使用禁止

●風呂場では使用しないでください。火災・感電の原因となります。

水ぬれ
禁止

●本機は屋内専用に設計されています。ぬらさないようにご注意ください。内部に水が入ると、火災・感電の原因となります。

■ 水の入った容器を置かない

●本機の上に花びん、植木鉢、コップ、化粧品、薬品や水などの入った容器や小さな金属物を置かないでください。中に入った場合、火災・感電の原因となります。

■ 中に物を入れない

●本機の通風孔などから金属類や燃えやすいものを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。

■ 中に水や異物が入ったら

電源プラグをコンセント
から抜いてください

●万一、本機の内部に水や異物が入った場合は、すぐに本機の電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。

■ 電源コードを傷つけたり、加工しない

●電源コードが傷んだら（芯線の露出、断線など）販売店に交換をご依頼ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

●電源コードの上に重いものをのせたり、コードが本機の下敷にならないようにしてください。コードに傷がついて、火災・感電の原因となります。コードの上を敷物などで覆うことにより、それに気付かず、重い物をのせてしまうことがありますのでご注意ください。
●電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。コードが破損して、火災・感電の原因となります。

■ 落としたり、破損した状態で使用しない

電源プラグをコンセント
から抜いてください

●万一、誤って本機を落とした場合や、キャビネットを破損した場合には、そのまま使用しないでください。火災・感電の原因となります。電源プラグをコンセントから抜き、必ず販売店にご相談ください。

■ 雷が鳴りだしたら機器に触れない

接触
禁止

●雷が鳴りだしたら、電源プラグには触れないでください。感電の原因となります。

■ 乾電池を充電しない

●乾電池は充電しないでください。電池の破裂や液もれにより、火災、けがの原因となります。

オーディオ機器の正しい使いかた

⚠注意

■ 設置上の注意

●強度の足りない台やぐらついたり、傾いたりした所など、不安定な場所に置かないでください。落ちたり倒れたりして、けがの原因となることがあります。
●本機の上に他のオーディオ機器を乗せたまま移動しないでください。倒れたり落下して、けがの原因となることがあります。
●本機の上に10kg以上の重い物や外枠からはみ出るような大きなものを置かないでください。バランスがくずれて倒れたり落下して、けがの原因となることがあります。

■ 次のような場所に置かない

●調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるような場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。
●湿気やほこりの多い場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。

■ 接続について

●本機を他のオーディオ機器やテレビなどの機器に接続する場合は、それぞれの機器の取扱説明書をよく読み、電源スイッチを切り、説明に従って接続してください。また接続は指定のコードを使用してください。指定以外のコードを使用したりコードを延長したりすると、発熱し、やけどの原因となることがあります。

■ 使用上の注意

●電源を入れたときは音量（ボリューム）に注意してください。過大入力でスピーカーを破損したり、突然大きな音が出て聴力障害などの原因となることがあります。
●長時間音が歪んだ状態で使わないでください。アンプ、スピーカー等が発熱し、火災の原因となることがあります。
●ヘッドホンをご使用になるときは、音量を上げすぎないようにご注意ください。耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。
●本機に乗ったり、ぶら下がったりしないでください。特にお子様にはご注意ください。倒れたり、こわれたりして、けがの原因となることがあります。
●キャッシュカード、フロッピーディスクなど、磁気を利用した製品を近づけないでください。磁気の影響で製品が使えなくなったり、データが消失することがあります。

■ 電源コード、電源プラグの注意

●電源コードを熱器具に近付けないでください。コードの被覆が溶けて、火災・感電の原因となることがあります。
●ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。
●電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。
●電源コードを束ねた状態で使用しないでください。発熱し、火災の原因となることがあります。

電源プラグをコンセントから抜いてください

●旅行などで長期間、本機をご使用にならないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。
●移動させる場合は、必ず電源プラグをコンセントから抜き、機器間の接続コードなど外部の接続コードを外してから行ってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

■ 電池について

●電池をリモコンに挿入する場合、極性表示（プラス＋とマイナス－の向き）に注意し、表示通りに入れてください。間違えると電池の破裂、液もれにより、火災、けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

●指定以外の電池は使用しないでください。また、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。電池の破裂、液もれにより火災、けがや周囲の汚損の原因となることがあります。
●電池は、加熱したり、分解したり、火や水の中に入れないでください。電池の破裂、液もれにより、火災、けがの原因となることがあります。

■ スピーカーコードについて

●スピーカーコードを傷つけたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。火災・感電の原因となることがあります。

■ 点検・工事について

電源プラグをコンセントから抜いてください

●お手入れの際は、安全のため電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。感電の原因となることがあります。

●使用環境にもよりますが、2年に1回程度の機器内部の掃除をお勧めします。もよりの販売店にご相談ください。

本機の内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。なお、掃除、点検費用等についても販売店にご相談ください。

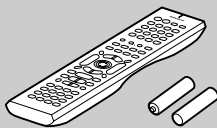
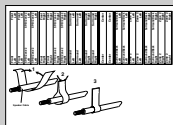
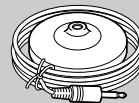
●電源プラグにほこりがたまると自然発火（トラッキング現象）を起こすことが知られています。年に数回、定期的にプラグのほこりを取り除いてください。梅雨期前が効果的です。

●シンナー、アルコールやスプレー式殺虫剤を本機にかけないでください。塗装がはげたり変形することがあります。

●表面の汚れは、中性洗剤をうすめた液に布を浸し、固く絞って拭き取ったあと、乾いた布で拭いてください。
化学ぞうきんなどをお使いになる場合は、それに添付の注意書きなどをお読みください。

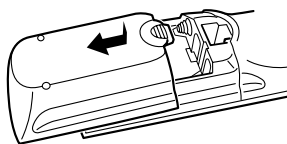
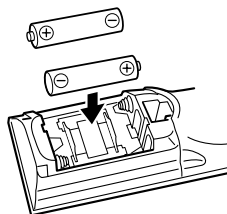
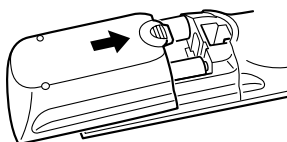
付属品を確認する

■付属品

ご使用の前に次の付属品がそろっていることをお確かめください。
（　）内の数字は数量を表しています。

リモコン（RC-594S）…（1）
乾電池（単三形、R6）…（2）

スピーカーコード用ラベル…（1）

簡単スピーカー設定用マイク…（1）

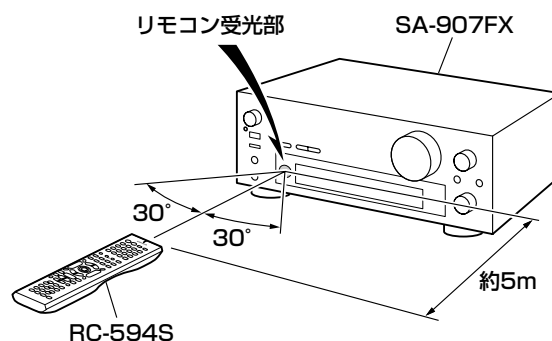
取扱説明書…（本書1）
保証書…（1）
オンキヨーご相談窓口・
修理窓口のご案内…（1）

リモコンを準備する

1. カバーを矢印の方向にずらして開ける

2. 中の極性表示にしたがって、付属の乾電池2個を＋（プラス）と−（マイナス）を間違えないように入れる

3. カバーを戻す

ご注意

- 種類の異なる電池や、新しい電池と古い電池を混用しないでください。
- 長期間リモコンを使用しないときは、電池の液漏れを防ぐために電池を取り出しておいてください。
- 寿命がなくなった電池を入れたままにしておきますと腐食によりリモコンをいためることがあります。リモコン操作の反応が悪くなったときは、古い電池を取り出して2本とも新しい電池と交換してください。
- 使用頻度にもよりますが、付属の電池の寿命は約6ヵ月です。電池の交換時には、単3形をご使用ください。

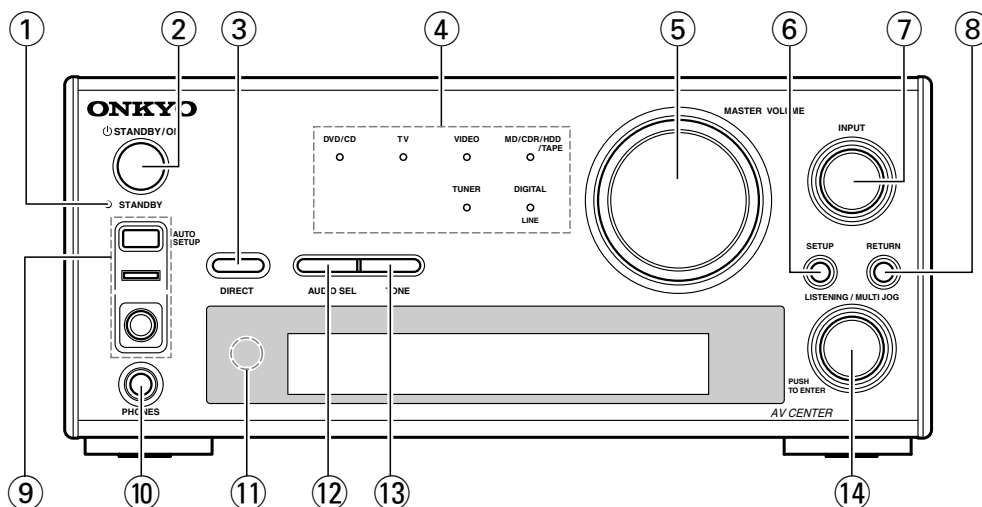
リモコンを使う

リモコンを本機のリモコン受光部に向けて使用してください。

ご注意

- リモコン受光部に日光やインバーター蛍光灯などの強い光を直接当てると正しく動作しないことがあります。
- 赤外線を使った機器の近くで使用したり、他のリモコンを併用すると誤動作の原因となります。
- リモコンの上に本など、ものを置かないでください。ボタンが押し続けられた状態になり、電池が消耗してしまうことがあります。
- オーディオラックのドアに色付きガラスを使っていると、リモコンが正常に機能しないことがあります。
- リモコンとリモコン受光部の間に障害物があると操作できません。

本体、リモコンボタンの名前と働き

前面パネル

詳しい説明は〔　　〕内のページをご覧ください。

① STANDBYインジケーター〔27〕
スタンバイ状態のときに点灯します。

② STANDBY/ONボタン〔27〕
電源のスタンバイ/オンを切り換えます。

③ DIRECTボタン〔35〕
リスニングモードを「ダイレクト」に切り換えます。

④ 入力インジケーター〔30〕
再生している機器の入力インジケーターが点灯します。

⑤ MASTER VOLUMEつまみ〔28、30〕
音量を調整します。
音量は基本的にMin・1・2･･･78・79・Maxの範囲で調整できます。

⑥ SETUPボタン〔44～47〕
いろいろな設定を行います。

⑦ INPUTつまみ〔30〕
再生する機器を選びます。

⑧ RETURNボタン
設定中に1つ前の表示に戻します。

⑨ AUTO SETUPボタン/インジケーター/マイク端子〔28、29〕
簡単スピーカー設定を行います。マイク端子に付属の簡単スピーカー設定用マイクを接続します。付属のマイク以外は絶対に接続しないでください。

⑩ PHONES端子〔31〕
ミニプラグのステレオヘッドホンを接続する端子です。

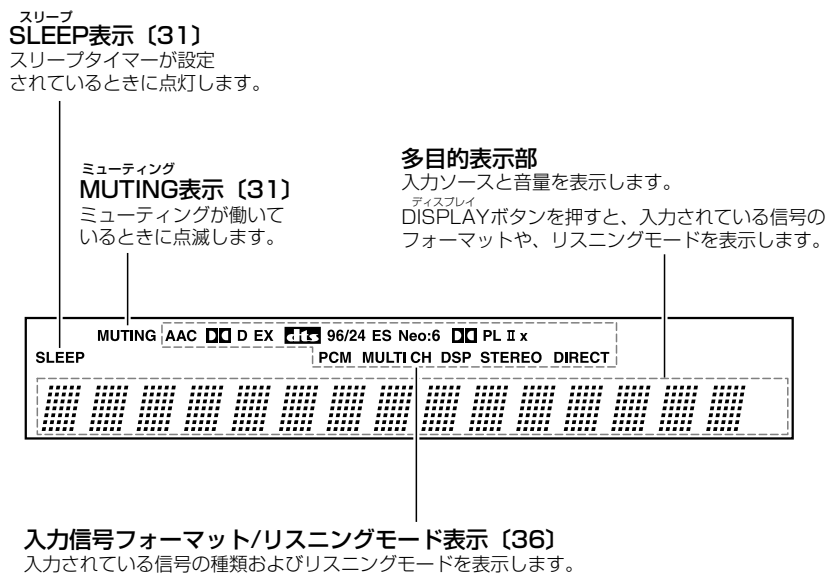
⑪ リモコン受光部〔8〕
リモコンからの信号を受信します。

⑫ AUDIO SELボタン〔32、48〕
入力信号の種類を切り換えます。

⑬ TONEボタン〔34〕
低音、高音を調整するときに使用します。

⑭ LISTENING/MULTI JOGダイヤル〔29、33、35、44～48〕
リスニングモードを選ぶときや、設定を選択するときに使用します。押すと選んだ項目を決定します。

本体、リモコンボタンの名前と働き

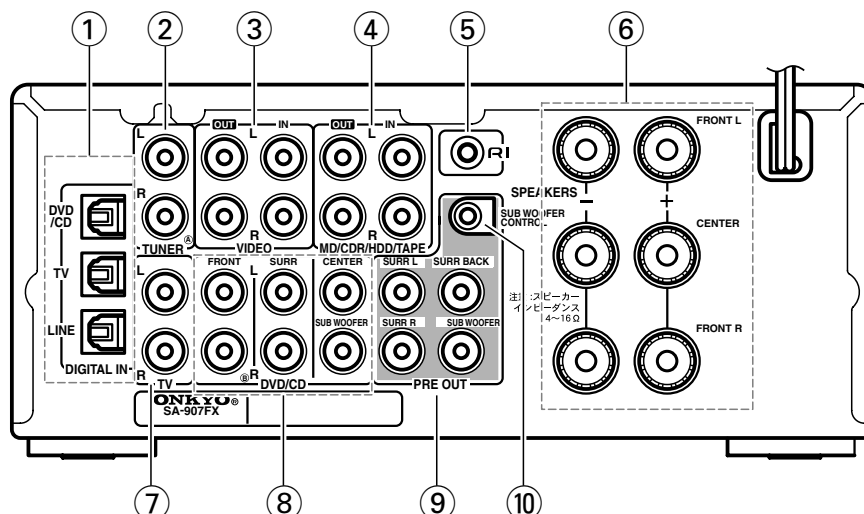
表示部

入力信号フォーマット表示

表示	フォーマット
DD D	Dolby Digital
dts	DTS
PCM	PCM
AAC	AAC

リスニングモード表示

表示	リスニングモード
DIRECT	Direct
STEREO	Stereo
DD PL II	PL II Movie/Music/Game
DD PL II x	PL II x Movie/Music/Game
dts Neo:6	Neo:6 Cinema/Music
DD D	Dolby Digital
DD D EX	Dolby Digital EX
dts	DTS
dts 96/24	DTS 96/24
dts ES	DTS−ES
dts Neo:6	DTS ＋ Neo:6
DD EX dts	DTS ＋ Dolby EX
AAC	AAC
AAC DD EX	AAC ＋ Dolby EX
DSP	オンキヨー独自のDSP

SA-907FX(09-16)(SN29343884) 10 04.9.9, 6:20 PM
ブラック

後面パネル

① **DIGITAL IN端子(DVD/CD、TV、LINE)〔21～23、25、26〕**
デジタル音声の入力端子。光デジタルケーブルを使ってデジタル再生機器を接続します。

② **TUNER入力端子〔21、23〕**
オーディオ用ピンコードを使ってチューナーを接続します。

③ **VIDEO IN/OUT端子〔25〕**
オーディオ用ピンコードを使ってビデオデッキなどの音声入出力端子と接続します。

④ **MD/CDR/HDD/TAPE IN/OUT端子〔21、24〕**
オーディオ用ピンコードを使ってMDレコーダーやCDレコーダーなどの録音機器を接続します。

⑤ **RI REMOTE CONTROL端子〔20～24、26〕**
RI端子付きオンキヨー製品と接続し、連動させる端子。
RIケーブルの接続だけでは連動しません。オーディオ用ピンコードも正しく接続してください。

⑥ **スピーカー端子〔18〕**
スピーカーを接続します。

⑦ **TV入力端子〔25、26〕**
オーディオ用ピンコードを使って、テレビの音声出力端子と接続します。

⑧ **DVD/CD入力端子〔21～23〕**
DVDプレーヤーやCDプレーヤーなどの音声出力端子と接続します。
マルチチャンネル出力のあるDVDプレーヤーDV-SP205FXなどと接続できます。

⑨ **PRE OUT端子〔19〕**
別売りのUWA-205などのオンキヨー製3.1CHスピーカーシステムと接続します。

⑩ **SUB WOOFER CONTROL端子〔19〕**
別売りのUWA-205などのオンキヨー製3.1CHスピーカーシステムと接続します。

リモコン（RC-594S）

AMP（TUNER）モード

■本機を操作するとき

詳しい説明は〔　〕内のページをご覧ください。本機を操作する前に、AMPボタンを押してください。

STANDBYボタン〔27〕
本機をスタンバイ状態にします。

ONボタン〔27〕
本機の電源を入れます。

TONE＋/－ボタン〔34〕
低音、高音(Bass、Treble)を調整します。

入力切換(INPUT SELECTOR)ボタン〔30〕
再生する機器を選びます。

DIMMERボタン〔31〕
表示部の明るさを切り換えます。

RETURNボタン
設定中に、表示部を1つ前の表示に戻します。

DISPLAYボタン〔33〕
表示部の表示を切り換えます。

リスニングモードボタン〔35〕

DIRECTボタン
リスニングモードを「ダイレクト」に切り換えます。

STEREOボタン
リスニングモードを「ステレオ」に切り換えます。

SURRボタン
入力されている信号に対応するリスニングモードを選びます。

DSPボタン
リスニングモードをオンキヨー独自のリスニングモードから選びます。

T-Dボタン
リスニングモードを「シアターディメンショナル」に切り換えます。

ALL STボタン
リスニングモードを「オールチャンネルステレオ」に切り換えます。

REMOTE MODEボタン〔12～16、49、52〕
このリモコンは、SA-907FXの入力を切り換え、これらのボタンでリモコン自体のモードを切り換えることによって、本機に接続した他の機器も操作することができます。リモコン操作時に設定されているモードのMODEボタンが点灯します。

AMPボタン
リモコンをAMPモードに設定し、本機を操作できるようにします。
本機を操作するときは、まずこのボタンを押してください。
また、本機にRI接続したチューナーを操作する場合にもこのボタンを押してください。

▲/▼/◀/▶/ENTERボタン〔40、43～46〕
設定中に上下左右に押して項目を選択します。中央を押すと、選択した項目を確定します。

SLEEPボタン〔31〕
スリープタイマーを設定します。

VOL▲/▼ボタン〔30〕
音量を調整します。

MUTINGボタン〔31〕
音を一時的に小さくします。

SETUPボタン〔40、41、43～46〕
表示部に設定内容を表示させます。

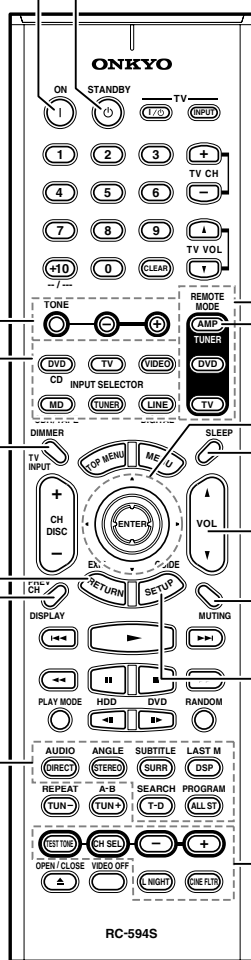
オーディオ設定ボタン

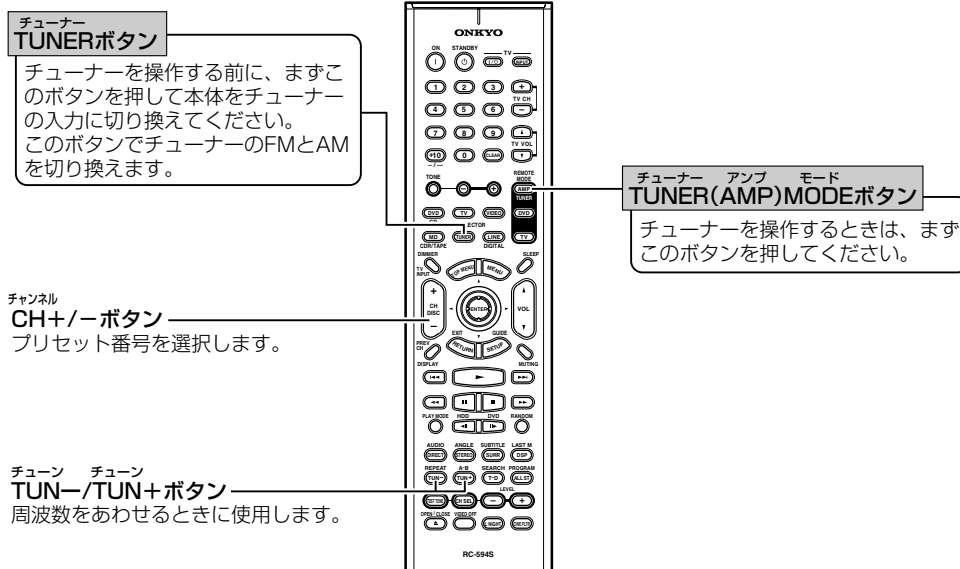
TEST TONEボタン〔47〕
スピーカーの音量レベルを設定するときに使用します。

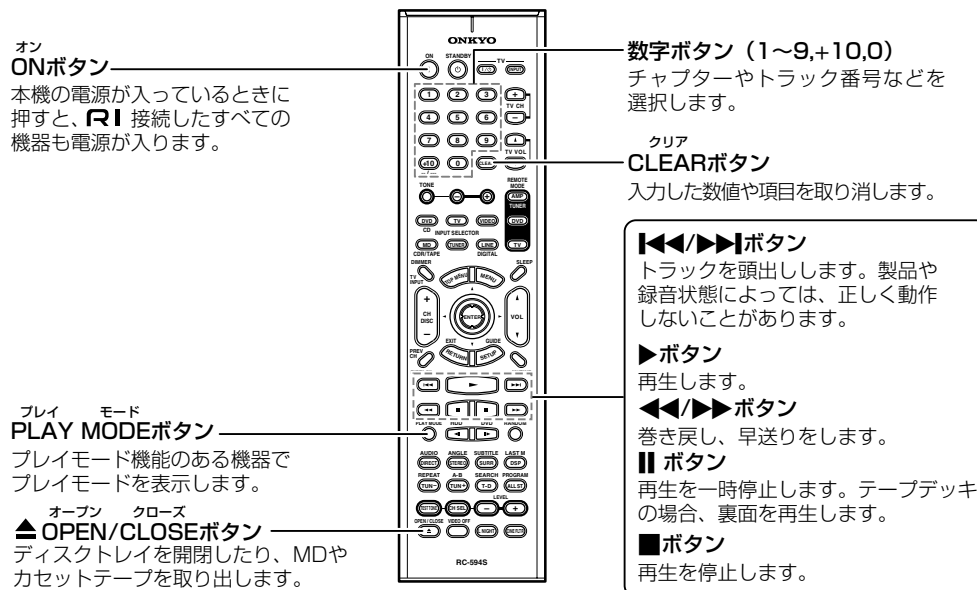
CH SELボタン〔47〕
距離または音量レベルを調整したいスピーカーを選択します。

LEVEL＋/－ボタン〔47〕
CH　SELボタンで選択したスピーカーレベルを調整します。

L NIGHTボタン〔40〕
レイトナイト機能をオン/オフします。

CINE FLTRボタン〔40〕
シネマフィルター機能をオン/オフします。

■ 本機にRI 接続したチューナーを操作するとき

● チューナーを操作する前に、AMPボタンを押してからINPUT SELECTORのTUNER(チューナー)ボタンを押して、再生する機器をTUNERに設定してください。

■ AMP(アンプ)モードでRI接続した機器を操作するとき

リモコンをAMPモードにすると、一部のボタンをRI接続したオンキヨー機器の操作に使用できます。
RIケーブルとオーディオ用ピンコードを正しく接続してください。操作するときは、本機のリモコン受光部に向けて操作してください。

ご注意

• 操作する機器によって使用できるボタンが異なります。
• モデルによって使用できない機能もあります。

SA-907FX(09-16)(SN29343884) 13 04.9.9, 6:20 PM
ブラック

本体、リモコンボタンの名前と働き

リモコンの初期設定では、DVDモードでRI接続したチューナー以外のオンキヨー製品を操作することができます。RIケーブルとオーディオ用ピンコードを正しく接続してください。RI接続した機器を操作するときは、本機のリモコン受光部に向けて操作してください。
ただし、49ページでリモコンコードを入力すると、コードを入力したDVDプレーヤーやDVDレコーダーのみ操作することになります。この場合は、RI接続した機器を操作することができなくなります。

DVDモード

＊の付いたボタンは、DV-SP205FXでは使用しません。

■ 本機にRI接続したDVDプレーヤーを操作するとき

DVDプレーヤーを操作する前に、AMPボタンを押してから入力切換のDVDボタンを押して、再生する機器をDVDに設定してください。接続するDVDプレーヤーや再生するDVDによっては、対応していない機能もあります。

STANDBYボタン
DVDプレーヤーをスタンバイ状態にします。

ONボタン
DVDプレーヤーの電源を入れます。

TOP MENUボタン
DVDのトップメニュー画面を表示します。

RETURN/EXITボタン
DVDのメニュー操作時に押すと、1つ前の画面に戻ります。メインメニュー画面で押すと、メニュー操作を終了します。

DISPLAYボタン
DVDプレーヤーの表示情報を切り換えます。

⏮/⏭ボタン
トラックを頭出しします。
▶ボタン
ディスクを再生します。
◀◀/▶▶ボタン
早戻し、早送りをします。
‖ ボタン
再生を一時停止します。
■ボタン
再生を停止します。
◀II/II▶ ボタン
スロー再生、コマ送り再生をします。

PLAY MODEボタン＊
プレイモード機能のある機器でプレイモードを表示します。

AUDIOボタン
音声を切り換えます。

ANGLEボタン
カメラアングルを切り換えます。

REPEATボタン
くり返し再生をします。

A-Bボタン
A-Bくり返し再生をします。

⏏ OPEN/CLOSEボタン
ディスクトレイを開閉します。

数字ボタン（1〜9,+10,0）
チャプター番号などを選択します。

CLEARボタン
入力した項目を取り消します。

DVD MODEボタン
まずこのボタンを押してリモコンをDVDモードにしてください。

MENUボタン
DVDのメニュー画面を表示します。

▲/▼/◀/▶/ENTERボタン
DVDのメニュー操作時、上下左右に押して項目を選択します。中央を押すと、選択した項目を確定します。

本機の操作
VOL▲/▼ボタン
音量を調整します。
MUTINGボタン
音を一時的に小さくします。

SETUPボタン
DVDの設定項目を表示します。

RANDOMボタン
ランダム再生をします。

LAST Mボタン＊
再生する場所を記憶させます。

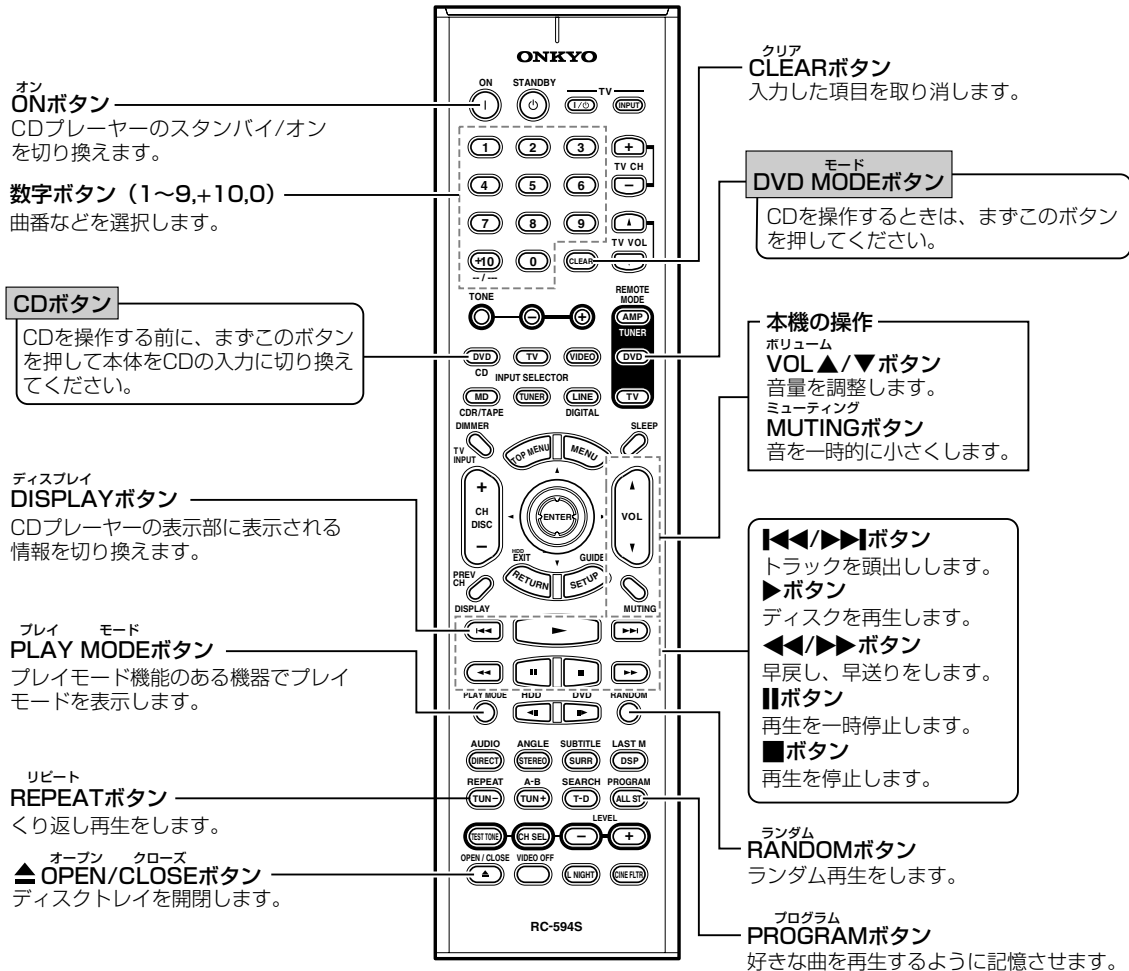
SUBTITLEボタン
字幕言語を切り換えます。

PROGRAMボタン
好きな曲/場面順に再生するように記憶させます。

SEARCHボタン
再生したい場所を指定します。

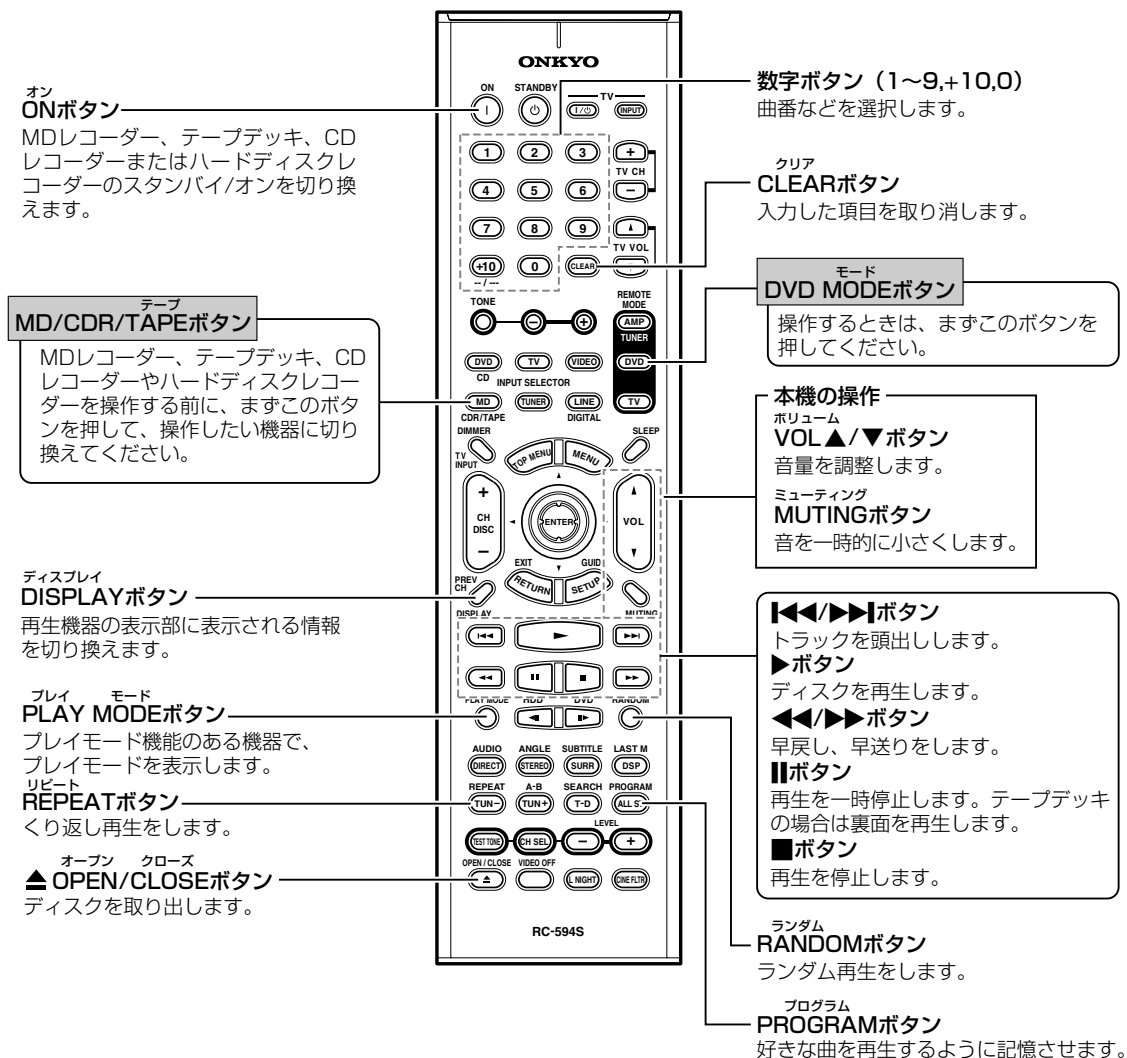
VIDEO OFFボタン＊
映像出力を切ることによって、より良い音で再生します。

■ 本機にRI接続したCDプレーヤーを操作するとき

- CDプレーヤーを操作するときは、29ページの設定で表示部の表示をDVDからCDに変更する必要があります。
- 操作をする前に、AMPボタンを押してからINPUT SELECTORのDVD/CDボタンを押して、再生する機器をCDに設定してください。

本体、リモコンボタンの名前と働き

■ 本機にRI接続したMDレコーダー、テープデッキ、CDレコーダーやハードディスクレコーダーを操作するとき

- テープデッキ、CDレコーダーやハードディスクレコーダーを操作するときは、29ページの設定で表示部の表示をMDからTAPE、CDRまたはHDDに変更する必要があります。
- 操作する前に、AMPボタンを押してからINPUT SELECTORのMD/CDR/TAPEボタンを押して、本機の表示部をMD、TAPE、CDRまたはHDDにしてください。

ご注意

- 製品や録音状態によっては、⏮/⏭ボタンを押したときに正しく動作しないことがあります。
- ダブルカセットデッキをご使用の場合は、デッキBのみを操作することができます。
- 2004年9月現在、対応するハードディスクレコーダーは販売されていません。

接続をする

ホームシアターを楽しもう

本機は優れた機能を使って音の立体感、移動感を実現し、ご家庭で簡単に劇場やコンサートホールさながらの臨場感あふれる音響効果をお楽しみいただけます。
再生機器の信号によって、DTSやドルビーデジタル再生、オンキヨー独自のDSPサラウンド再生をお楽しみいただけます。

スピーカーの使いかた

2つお持ちの場合、左右フロントスピーカーとして使用します。（2チャンネル再生）

3つお持ちの場合、左右フロントスピーカー、センタースピーカーとして使用します。（3チャンネルサラウンド）

- 別売りのオンキヨー製3.1CHスピーカーシステムUWA-205などを使って、6.1チャンネル再生を楽しむことができます。
- 別売りのオンキヨー製スピーカーシステムD-102FXをフロントスピーカーとして、D-057FXCをセンタースピーカーとして使用することができます。

左右フロントスピーカー
総合的に音声を出力します。
ホームシアターの柱となり、音場をしっかりと整える役割を果たします。
視聴位置の前方に配置します。
音楽や映画を鑑賞する位置と姿勢で、視聴者の耳に向くように配置してください。左右対象が理想です。

センタースピーカー
左右フロントスピーカーの音響効果や音の動きを明確にして、より豊かなサウンドイメージを作ります。映画ではとくにセリフが出力されます。
できるだけ画面の近くで、視聴者の耳に向くように配置してください。左右フロントスピーカーとなるべく同じ高さになるように配置してください。

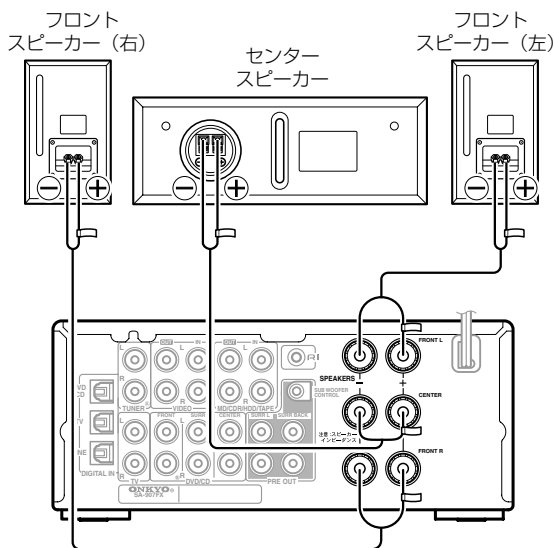
サラウンドバックスピーカー
サラウンドチャンネルの空間表現力を高め、移動音効果や後方の音場を一層リアルに表現します。
視聴者の耳より１m高い位置にスピーカーを配置するのが理想です。

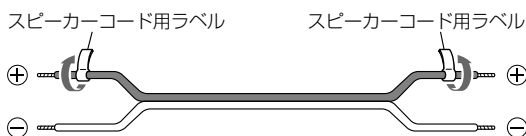
サブウーファー
低音のみを出力し、迫力ある重低音効果を最大限に発揮します。
部屋の隅、または部屋の1/3の位置に配置します。

左右サラウンドスピーカー
臨場感を高める役割を果たします。
効果音などで音の立体的な動きを表現します。
視聴位置の横または後斜めに配置します。
左右対象で視聴者の耳より１m高い位置が理想です。

- 電源を入れたらまず、簡単スピーカー設定を行ってください。（☞28、29ページ）

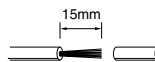
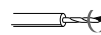
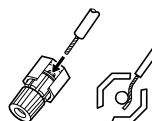
スピーカーを接続する

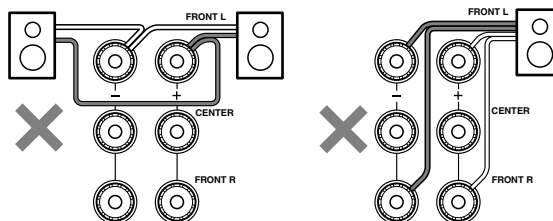
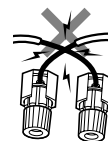
スピーカーの配置については17ページをご覧ください。
本機にはインピーダンスが4Ω〜16Ωのスピーカーを接続してください。インピーダンスが4Ω未満のスピーカーを接続すると、保護回路が働きます。

スピーカーコード用ラベルの使いかた

本機はスピーカー端子の⊕側に色をつけて識別しやすくしています。付属のスピーカーコード用ラベルをお持ちのスピーカーコード両端のプラス⊕に貼ると識別が簡単になります。
本機のスピーカー端子は以下のように色分けしています。

左フロント	：**白**	左フロントスピーカーのコード両端（⊕側）に白いラベルを貼る
右フロント	：**赤**	右フロントスピーカーのコード両端（⊕側）に赤いラベルを貼る
センター	：**緑**	センタースピーカーのコード両端（⊕側）に緑のラベルを貼る

スピーカーコードの接続

本機のスピーカー端子のプラス⊕とスピーカーのプラス⊕端子にラベルを貼った側のスピーカーコードを接続します。本機のスピーカー端子のマイナス⊖とスピーカーのマイナス⊖端子とをラベルの貼っていない側のスピーカーコードで接続します。

①スピーカーコードの被覆を15mmカットする
②しん線の先端をしっかりとよじる

③ねじをゆるめる
④しん線を差し込む
⑤ねじを締め付ける

ご注意

- プラス⊕とマイナス⊖を間違って接続したり、左右のスピーカーを間違えて接続すると音声が不自然になりますのでご注意ください。
- スピーカー端子に複数のスピーカーコードは接続しないでください。故障の原因になります。
- 1台のスピーカーだけを使用する場合やモノラル音声を再生する場合、1台のスピーカーを左右スピーカー端子に並列接続しないでください。

危険
回路の故障を防ぐため、スピーカーコードのしん線のプラスとマイナスを絶対に接触させないでください。

別売りのUWA-205と接続して6.1チャンネルにする

UWA-205に付属のSWA-205専用接続コードを使って、下図のように各端子を接続します。
電源プラグは、まだ接続をしないでください。

: 信号の流れ

SWA-205

SA-907FX

(黒) SUBWOOFER CONTROL

(青) SURR L

(茶) SURR B

(灰) SURR R

(紫) SUBWOOFER

(黒) SUBWOOFER CONTROL

(青) SURR L

(茶) SURR B

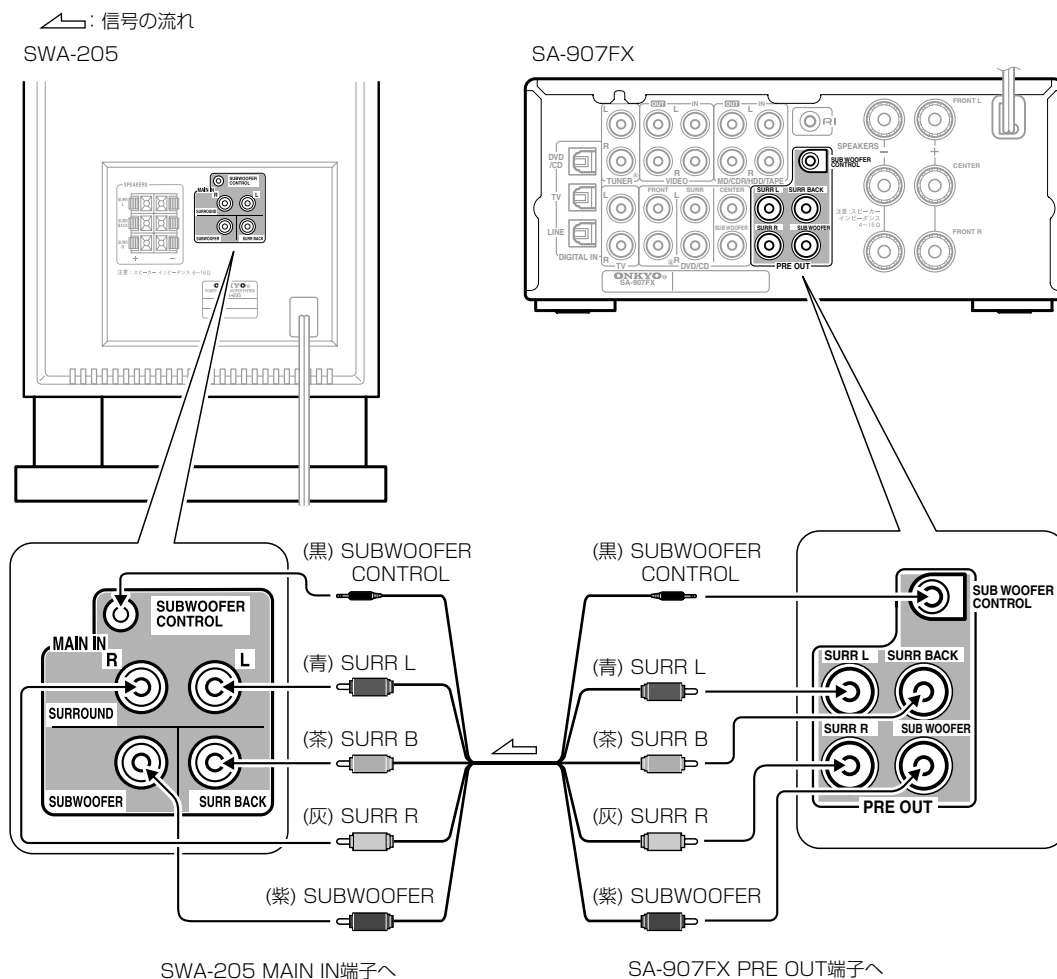
(灰) SURR R

(紫) SUBWOOFER

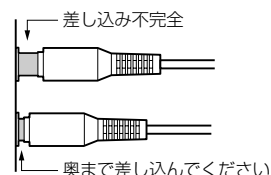
SUBWOOFER CONTROL
MAIN IN
R
L
SURROUND
SUBWOOFER
SURR BACK

SUB WOOFER CONTROL
SURR L
SURR BACK
SURR R
SUB WOOFER
PRE OUT

SWA-205 MAIN IN端子へ

SA-907FX PRE OUT端子へ

ご注意

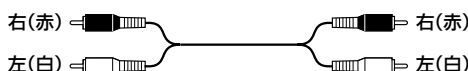
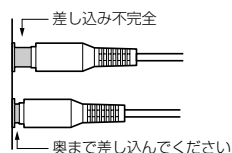
SUBWOOFER CONTROL端子に接続する際は、近くにあるRI端子と間違えないように気をつけてください。

- コードのプラグはしっかりと奥まで差し込んでください。
接続が不完全ですと、雑音や動作不良の原因になります。
- 専用接続コードはスピーカーコードと一緒に束ねないでください。音質が悪くなることがあります。
- サラウンドスピーカー、サラウンドバックスピーカーの接続のしかたについては、UWA-205の取扱説明書をご覧ください。

接続をする

接続の前に

- 接続する機器の取扱説明書も必ずお読みください。
- 電源コードは全ての接続が終わるまでつながないでください。

オーディオ用ピンコードは以下のように接続してください。

- 入力端子は赤いコネクターを右チャンネル（Rの表示）、白いコネクターを左チャンネル（Lの表示）に接続してください。

- コードのプラグはしっかりと奥まで差し込んでください。接続が不完全ですと、雑音や動作不良の原因になります。
- オーディオ用ピンコードは電源コードやスピーカーコードと束ねないでください。音質や画質が悪くなることがあります。

光デジタル入力端子について

本機の光デジタル端子はすべてとびらタイプですので、とびらをそのまま奥へ倒すようにして光デジタルケーブルを差し込んでください。

ご注意

光デジタルケーブルはまっすぐ抜き差ししてください。
ななめに抜き差しすると、とびらが破損する場合があります。

システム機能について

INTEC205シリーズの組み合わせでRIケーブル、オーディオ用ピンコードを接続すると、次のシステム機能を使うことができます。RIケーブルとは、オンキヨーのシステム動作用ケーブルです。INTEC205シリーズのDVDプレーヤー、CDプレーヤー、MDレコーダー、CDレコーダー、カセットテープデッキ、チューナーと接続する場合

システム接続のしかた
（INTEC205 シリーズの接続）

本取扱説明書21～24ページをご覧ください。

オートパワーオン
本機に接続されている機器の電源を入れたり、再生を始めると、本機の電源が自動的に入ります。また、本機の電源を入、切すると接続されている機器全体の電源が入ったり、切れたりします。

ダイレクトチェンジ
本機に接続されている機器を再生すると、本機の入力が自動的に切り換わります。

リモコン操作
本機に付属のリモコンで各機器を操作することができます。

詳しくは本取扱説明書13～16ページをご覧ください。

タイマー操作
チューナーでタイマー時間を設定し、タイマー操作や、タイマー録音ができます。

詳しくはチューナーの取扱説明書をご覧ください。
＊T-405TXと組み合わせて、DVDプレーヤーのタイマー動作をするときは、再生するソースに「LINE/DVD」ではなく、「CD」を選んでください。

CDダビング※
CDプレーヤーやDVDプレーヤー（DV-SP205FX）とMDレコーダー、カセットテープデッキ、CDレコーダーの組み合わせで便利なCDダビングがワンタッチで行えます。

トラック指定CDダビング※
演奏トラックを指定してCDプレーヤーやDVDプレーヤー（DV-SP205FX）からMDレコーダー、CDレコーダーへの録音がワンタッチで行えます。

CDシンクロ録音※
MDレコーダー、カセットテープデッキまたはCDレコーダーを録音待機状態にしておけばCDプレーヤーやDVDプレーヤー（DV-SP205FX）のプレイ操作のみで録音が自動的に始まります。

詳しくはCDプレーヤー、DVDプレーヤー（DV-SP205FX）、MDレコーダー、カセットテープデッキ、CDレコーダーの取扱説明書をご覧ください。

※DV-SP205（DVDプレーヤー）では、CDの再生はできますが、CDダビング、トラック指定CDダビング、CDシンクロ録音の機能はありません。

- 接続が正しくないと各機能は働きません。21～24ページを参照しながらオーディオ用ピンコード、RIケーブルを正しく接続してください。
- システム機能については、各機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

■例：INTEC205シリーズのDV-SP205FX、T-405TX、MD-105TXと接続する

電源コンセント
AC100V 50/60Hz

T-405TX

SA-907FX

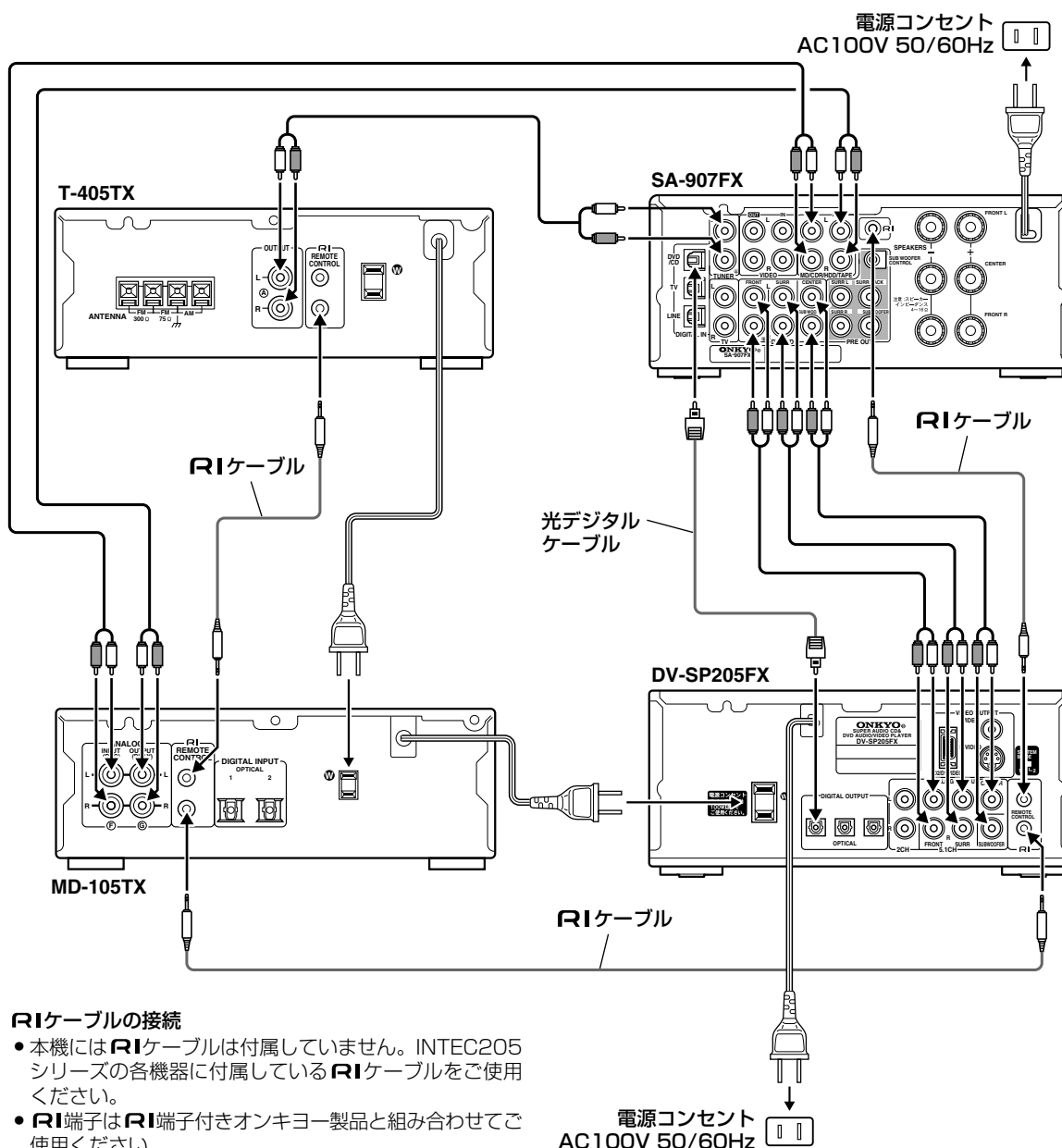
RIケーブル

光デジタル
ケーブル

DV-SP205FX

MD-105TX

RIケーブル

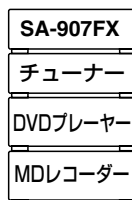
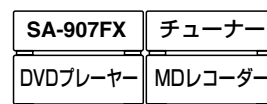
電源コンセント
AC100V 50/60Hz

RIケーブルの接続

- 本機にはRIケーブルは付属していません。INTEC205シリーズの各機器に付属しているRIケーブルをご使用ください。
- RI端子はRI端子付きオンキヨー製品と組み合わせてご使用ください。
- RI端子が2つある場合、2つの端子の働きは同じです。どちらにでもつなげます。
- RI 端子の接続だけではシステムとして働きません。オーディオ用ピンコードも正しく接続してください。

！ヒント

- 各機器の設置のしかたについては、右図のような方法があります。DVDプレーヤー、CDプレーヤーやMDレコーダーには熱に弱い部品が使用されていますので、アンプの上に置かないでください。
- 各接続については、次ページからの説明をご覧ください。

（縦置の例）

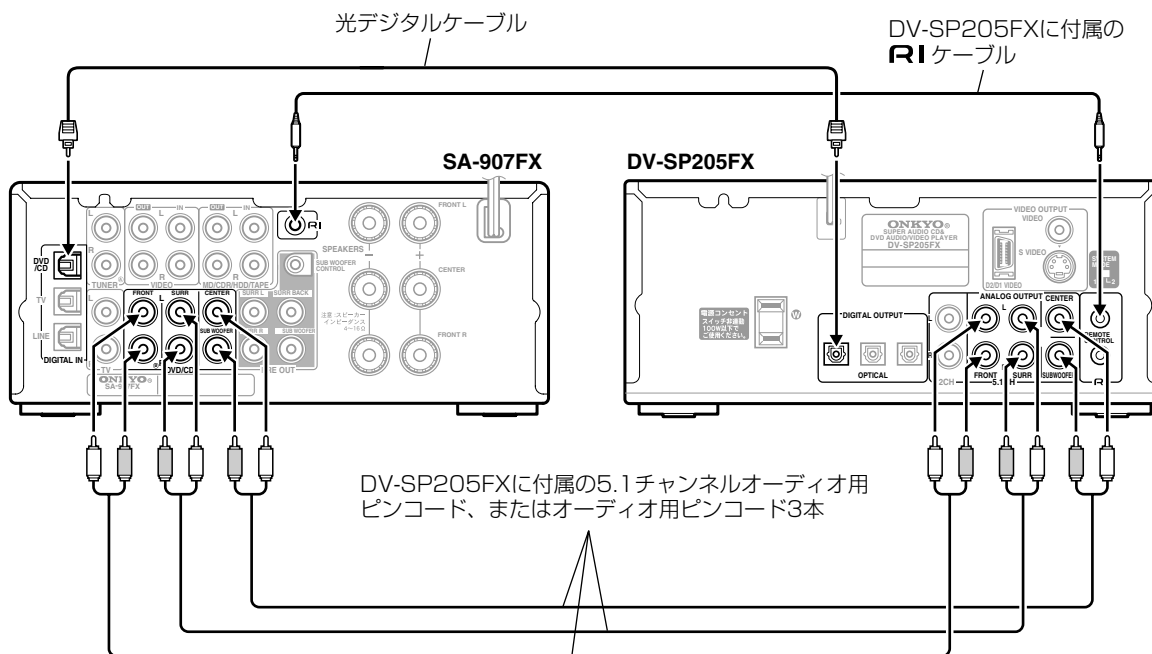
SA-907FX(17-27)(SN29343884) 21 04.9.9, 6:20 PM
ブラック

接続をする

DV-SP205FXなどDVDオーディオやスーパーオーディオCD対応の再生機器を接続する

■ オンキヨー製DVDプレーヤーDV-SP205FXの場合

DV-SP205FXに付属の5.1チャンネルオーディオ用ピンコードを使って、本機のDVD/CD入力端子とDV-SP205FXの5.1CH ANALOG OUT端子を接続します。
本機のDVD/CD DIGITAL IN端子とDV-SP205FXのDIGITAL OUTPUT OPTICAL端子を接続します。

！ヒント

DV-SP205FXの映像出力端子は、直接テレビと接続してください。

RI機能を使うには

- 入力の表示名称を「DVD」に変更する必要があります。（☞29ページ）（お買い上げ時の設定は「DVD」ですので、そのままお使いください。）
- RIケーブルの接続だけではシステムとして働きません。オーディオ用ピンコードも正しく接続してください。

■ その他のDVDオーディオやスーパーオーディオCD対応の再生機器と接続する場合

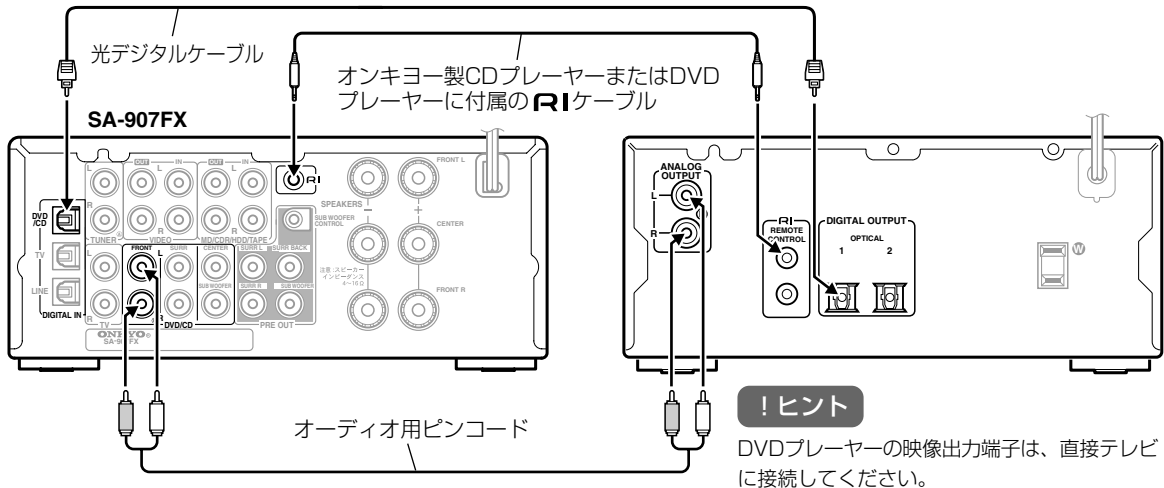
本機のDVD/CD入力端子と再生機器の5.1チャンネル音声出力端子を接続します。
本機のDVD/CD DIGITAL IN端子と再生機器のデジタル音声出力端子を接続します。

CDプレーヤーやDVDプレーヤーを接続する

■オンキヨー製CDプレーヤーまたは2チャンネルのDVDプレーヤーの場合

本機のDVD/CD入力端子Ⓑ とCDプレーヤーまたはDVDプレーヤーのANALOG OUTPUT端子Ⓑを接続します。
本機のDVD/CD DIGITAL IN端子とCDプレーヤーまたはDVDプレーヤーのDIGITAL OUTPUT端子を接続します。

！ヒント

DVDプレーヤーの映像出力端子は、直接テレビに接続してください。

RI機能を使うには

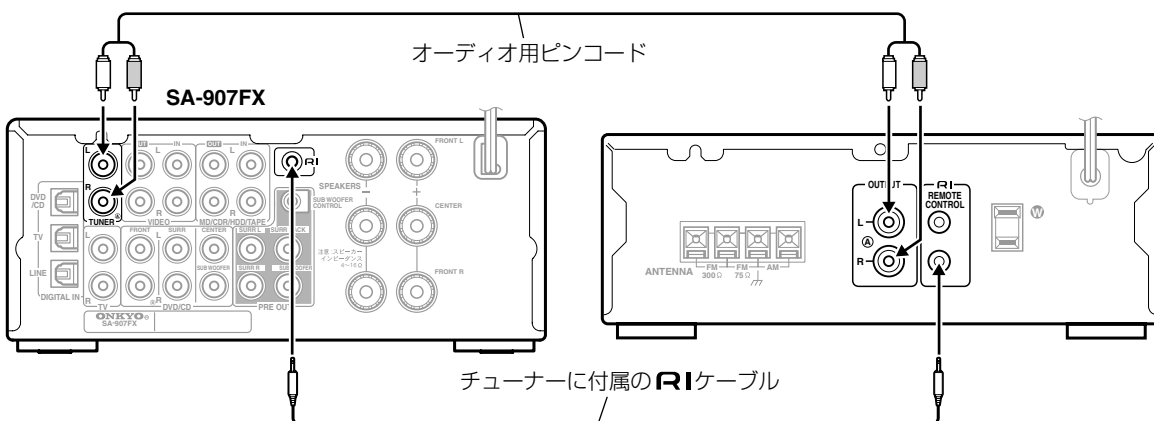
- CDプレーヤーの場合、入力の表示名称を「CD」に、DVDプレーヤーの場合、入力の表示名称を「DVD」にする必要があります。(☞29ページ)(DVDプレーヤーの場合は、お買い上げ時の設定が「DVD」ですので、そのままお使いください。)
- RIケーブルの接続だけではシステムとして働きません。オーディオ用ピンコードも正しく接続してください。

■その他のCDプレーヤーやDVDプレーヤーと接続する場合

本機のDVD/CD入力端子とCDプレーヤーまたはDVDプレーヤーの音声出力端子を接続します。
本機のDVD/CD DIGITAL IN端子とCDプレーヤーまたはDVDプレーヤーのデジタル音声出力端子を接続します。

チューナーを接続する

■オンキヨー製チューナーの場合

本機のTUNER入力端子Ⓐとチューナーのoutput端子Ⓐを接続します。

RI機能を使うには

RIケーブルの接続だけではシステムとして働きません。オーディオ用ピンコードも正しく接続してください。

■その他のチューナーと接続する場合

本機のTUNER入力端子とチューナーの音声出力端子を接続します。

接続をする

録音機器を接続する

MDレコーダー、CDレコーダー、テープデッキやハードディスクレコーダーなどの音声入出力端子を接続することができます。

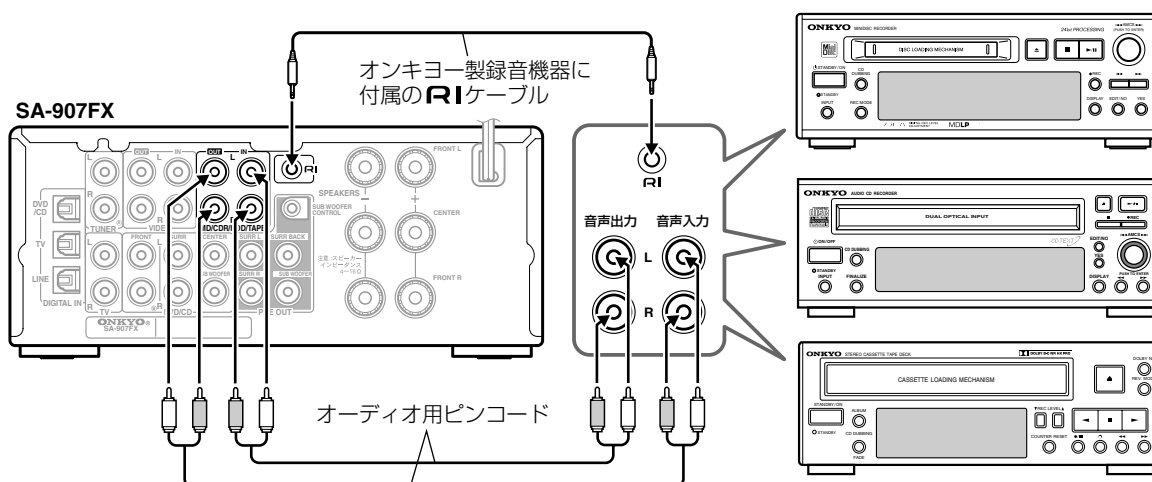
■オンキヨー製MDレコーダーの場合

本機のMD/CDR/HDD/TAPE OUT端子とMDレコーダーのANALOG INPUT端子Ⓕを接続します。
本機のMD/CDR/HDD/TAPE IN端子とMDレコーダーのANALOG OUTPUT端子Ⓖを接続します。

■オンキヨー製CDレコーダーの場合

本機のMD/CDR/HDD/TAPE OUT端子とCDレコーダーのANALOG INPUT端子Ⓚを接続します。
本機のMD/CDR/HDD/TAPE IN端子とCDレコーダーのANALOG OUTPUT端子Ⓛを接続します。

■オンキヨー製テープデッキの場合

本機のMD/CDR/HDD/TAPE OUT端子とテープデッキのANALOG INPUT端子Ⓓを接続します。
本機のMD/CDR/HDD/TAPE IN端子とテープデッキのANALOG OUTPUT端子Ⓔを接続します。

RI機能を使うには

- 入力の表示名称を「MD」、「CDR」または「TAPE」に変更する必要があります。(☞29ページ)
  (MDレコーダーの場合、お買い上げ時の設定は「MD」ですので、そのままお使いください。)
- RIケーブルの接続だけではシステムとして働きません。オーディオ用ピンコードも正しく接続してください。

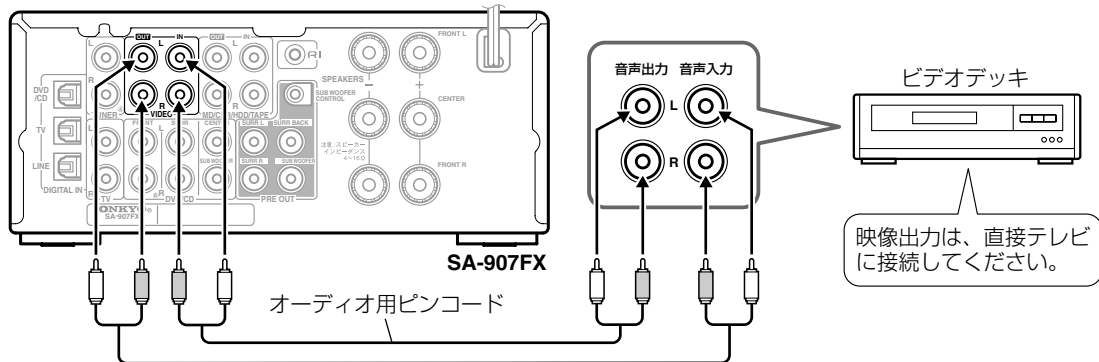
■その他の機器と接続する場合

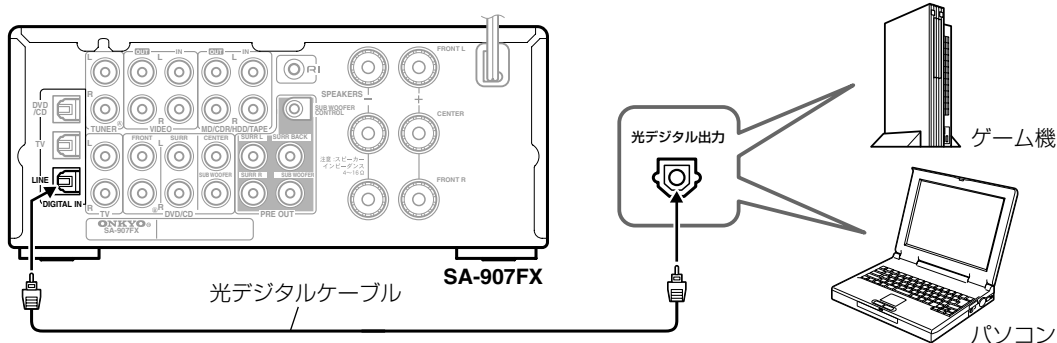
ハードディスクレコーダーなどの映像出力端子は直接テレビに接続してください。
本機のMD/CDR/HDD/TAPE OUT端子と接続する機器の音声入力端子を接続します。
本機のMD/CDR/HDD/TAPE IN端子と接続する機器の音声出力端子を接続します。

！ヒント

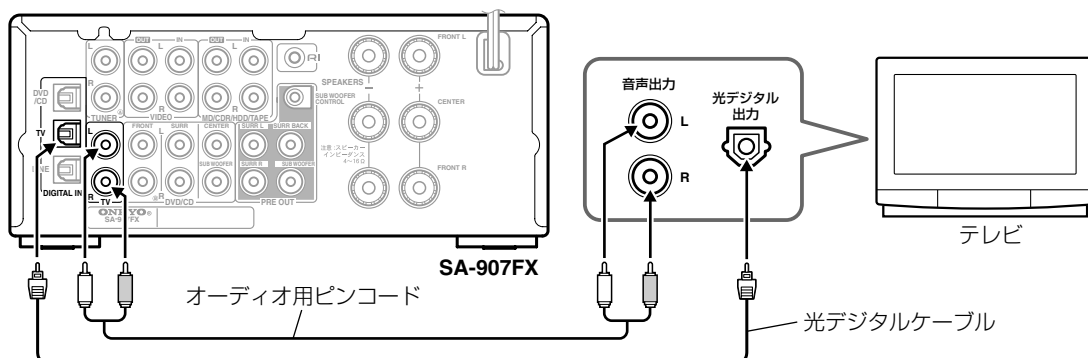
MD、CDRやカセットテープは2チャンネルで記録されているため、デジタル接続をしてもドルビーデジタルなどの音声はお楽しみいただけません。また、アナログ接続のみでもドルビープロロジックIIなどのサラウンド効果がお楽しみいただけます。

ビデオデッキを接続する

本機のVIDEO IN端子とビデオデッキの音声出力端子を接続します。
本機のVIDEO OUT端子とビデオデッキの音声入力端子を接続します。

デジタル機器の音声を本機で聞く接続をする

本機のLINE DIGITAL IN端子とゲーム機、BSチューナーやパソコンなどのデジタル機器のデジタル音声出力端子を接続します。

- 接続する機器のデジタル音声出力設定を確認してください。DVD対応のゲーム機など、機器によってはドルビーデジタル信号やDTS信号の出力設定が「オフ」になっていることがあります。
- パソコンに光デジタル出力端子がない場合は、オーディオプロセッサーなどを使うと、デジタル接続ができます。

テレビの音を本機で聞く接続をする

本機のTV入力端子とテレビの音声出力端子を接続します。テレビに光デジタル音声出力端子がある場合は、本機のTV DIGITAL IN端子と接続します。

RIオーディオコントロール端子付きテレビとの連動について

本機はRI端子を持つテレビと接続すると次の動作が可能になります。

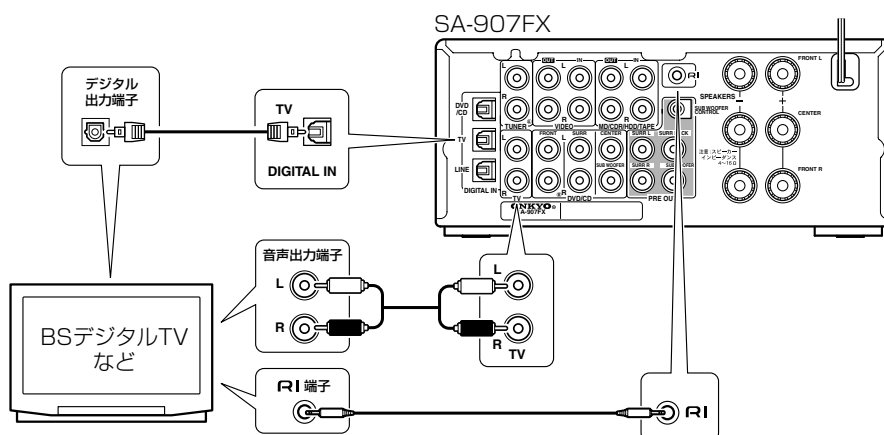
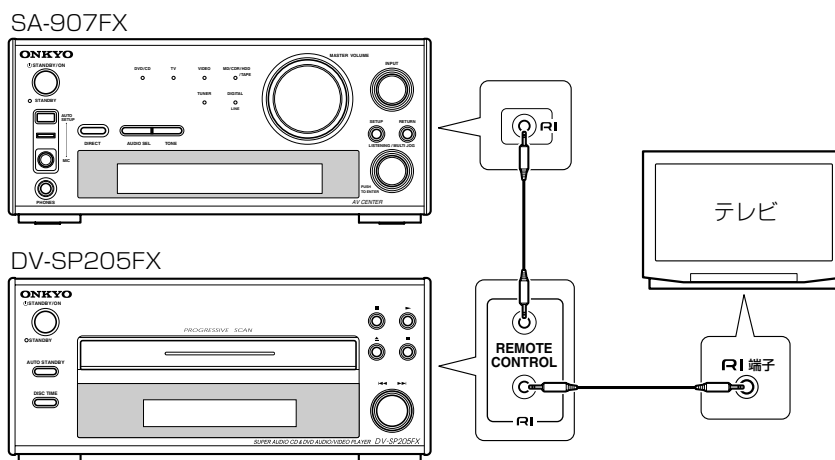
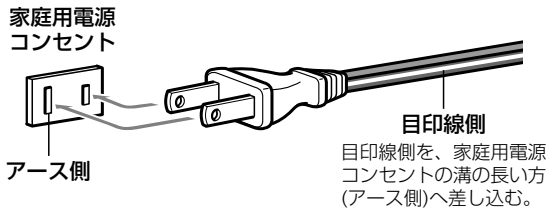
① テレビの電源を入れると本機の電源も自動的に入り、入力が切り換わります。
　このときテレビの音は消え、本機に接続されたスピーカーから音が出ます。また、テレビを切る（スタンバイにする）と、本機もスタンバイ状態になります。ただし、本機で他の入力を選んでいる場合は、スタンバイ状態になりません。

② テレビに付属のリモコンで本機の音量調整、ミューティング（消音）ができます。

③ 本機をスタンバイ状態にするとテレビの音が復帰し、テレビに付属のリモコンでテレビ側の機能（音量、消音）をコントロールできるようになります。

連動動作が可能なテレビについては、テレビのカタログや取扱説明書で、RI端子が装備されているかどうかをご確認ください。
本機にケーブルは付属していません。モノラルミニプラグコード（抵抗なし）を別途お求めください。

接続のしかた

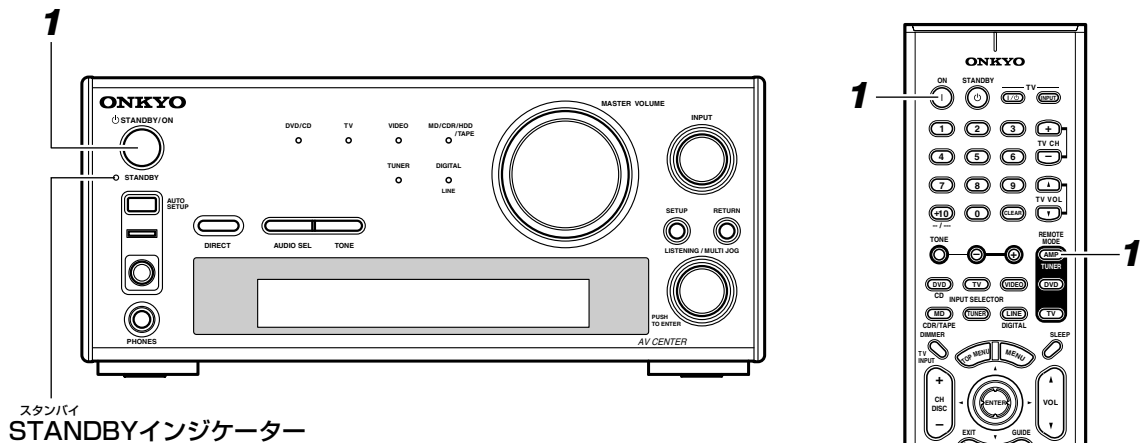
- 本機のTV音声入力（TV L/R）端子を接続する
- モノラルミニプラグコードでテレビのRIオーディオコントロール端子と本機のRI端子を接続する
- テレビの光デジタル音声出力端子と本機のDIGITAL IN TV端子と接続する
  （テレビに光デジタル音声出力端子がない場合は接続する必要はありません）

- 他のオンキヨー製品を接続する場合は、RIケーブルでRI端子どうしを接続してください。
- RI端子が2つある製品の場合、2つの働きは同じですのでどちらにでも接続できます。
- RI端子の接続だけではシステムとして働きません。オーディオ用ピンコードも正しく接続してください。

電源コードを接続する

電源コードを接続する前に

すべての接続が完了していることを確認してください。本機の電源を入れると，瞬間的に大きな電流が流れてコンピューターなどの機器の動作に影響することがあります。コンピューターなど、繊細な機器とは別系統のコンセントに接続することをおすすめします。

よりよい音で聞いていただくために

本機の電源コンセントは極性の管理がされています。電源コードの目印線側を家庭用電源コンセントの溝の長い方に合わせて差し込んでください。家庭用電源コンセントの溝の長さが同じ場合はどちらを接続してもかまいません。

電源を入れる

1

本体

または

リモコン

本体の STANDBY（スタンバイ）/ON（オン） ボタン、またはリモコンの AMP（アンプ） ボタンを押してから ON（オン） ボタンを押す

STANDBYインジケーターが消え、表示部が点灯します。

！ヒント

リモコンのONボタンをもう一度押すと、RI接続したすべてのオンキヨー機器も電源が入ります。

スタンバイ状態に戻すには

本体のSTANDBY/ONボタンまたはリモコンのAMPボタンを押してからSTANDBYボタンを押します。

初期設定をする

簡単スピーカー設定をする

付属のマイクを使って、接続したスピーカーの数やサイズ、視聴位置までの距離、各スピーカーのレベルなどを自動で測定し、設定します。
設定する前に、使用するすべてのスピーカーの接続と設置を行ってください。

1

STANDBY/ON

本機の電源を入れる

STANDBY/ON（スタンバイ/オン）ボタンを押します。

2

AUTO SETUP

AUTO SETUP（オート セットアップ）ボタンを押す

「Plug in Mic.（プラグ イン マイク）」と表示されます。

以下のエラーメッセージが表示されているときは設定ができません。

Phones engaged

ヘッドホンが接続されていると設定ができません。

Muting On

ミュート機能が働いているときは、解除してください。

3

付属の簡単スピーカー設定用マイクを視聴位置に設置してから、マイクのプラグを本機のマイク端子に接続する

- マイクは水平に置いてください。
- それぞれのスピーカーからマイクの間に障害物があると、正しく設定できません。通常の視聴時と同じ環境にしてください。

！ヒント

視聴するときの耳に近い位置にマイクを設置すると、正確に設定できます。三脚や水平な台を使用すると高さを調節できます。

4

AUTO SETUP

AUTO SETUPボタンを押す

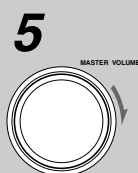
フロントスピーカーから交互に「ザー」というテスト音が出力されます。

ご注意

- テスト音は、はじめ音量が37に設定されています。通常お聞きになっている音量がこれよりも小さい場合は、突然大きな音になりますので、ご注意ください。
- マイクが正しく接続されていないときは、以下のエラーメッセージが表示されます。マイクを正しく接続し直してください。

No Mic Detected

5

MASTER VOLUME

音量を調節する

普段聞いている音よりも少し大きめに設定することをお勧めします。
この後の手順では、設定が終わるまで音量を調節することができません。

6

AUTO SETUP

AUTO SETUPボタンを押す

順番に各スピーカーからテスト音が出力され、測定が始まります。測定中はAUTO SETUPインジケーターがゆっくり点滅します。約90秒の時間がかかります。

- 測定中に外部からの雑音が入ると正しく測定できないことがあります。
- テスト音が出ていないときも測定しています。

途中で雑音が入ってしまったら…
AUTO SETUPボタンを押して、測定を中止し、もう一度はじめから測定し直してください。

7

測定完了後、結果が表示される

測定が完了すると結果が表示され、「スピーカーの有無と大きさ」、「クロスオーバー」、「視聴位置からの距離」、「スピーカーの音量レベル」（43～47ページ）に反映されます。

結果：

SP：/L S S S Y

SP：/の後、左からフロントスピーカー、センタースピーカー、サラウンドスピーカー、サラウンドバックスピーカー、サブウーファーの設定内容が表示されます。

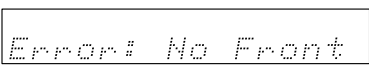
L（Large（ラージ））：
大型のスピーカーが接続されています。

S（Small（スモール））：
小型のスピーカーが接続されています。

Y（Yes（イエス））：
サブウーファーが接続されています。

N（None（ナン））：
スピーカー（サブウーファー）は接続されていません。

フロントスピーカーが接続されていないときは、以下のようなエラーメッセージが表示されます。

Error: No Front

この場合、簡単スピーカー設定での設定は反映されません。電源を切って、フロントスピーカーを接続してから、もう一度初めから簡単スピーカー設定を行ってください。

8

AUTO（オート） SETUP（セットアップ）ボタンを押して、マイクのプラグを抜く

AUTO SETUP

簡単スピーカー設定が終了します。

- 簡単スピーカー設定の結果が各設定に反映されているとき、AUTO SETUPインジケーターが点灯します。手動で各設定（43～47ページ）を変更すると、このインジケーターは消灯します。
- スピーカーを変更したり、追加する場合は、もう一度設定し直してください。

ご注意

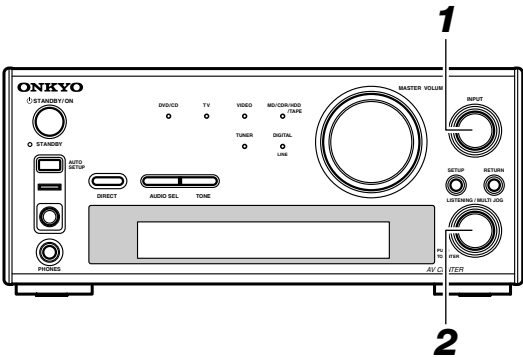
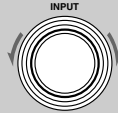
マイクは必ず抜いてください。マイクを接続しているときは音が出ません。

！ヒント

フロントスピーカーから音が出ているのに、NO（ノー） Front（フロント）とエラーメッセージが出るときは、音量が小さいためマイクが感知できていない可能性があります。もう少し音量を上げるか、雑音を排除してみてください。

入力表示を切り換える

オンキヨーのRI端子付き製品を接続した場合、リモコン操作やダイレクトチェンジなどのシステム動作を正しく行うために、入力表示を切り換える必要があります。

1

INPUT（インプット）つまみを回して「DVD」または「MD」を表示させる

2

LISTENING（リスニング）/MULTI（マルチ） JOG（ジョグ）ダイヤルを約3秒押し続けて、表示を切り換える

この手順をくり返すと以下のように切り換わります。

DVD ➡ CD

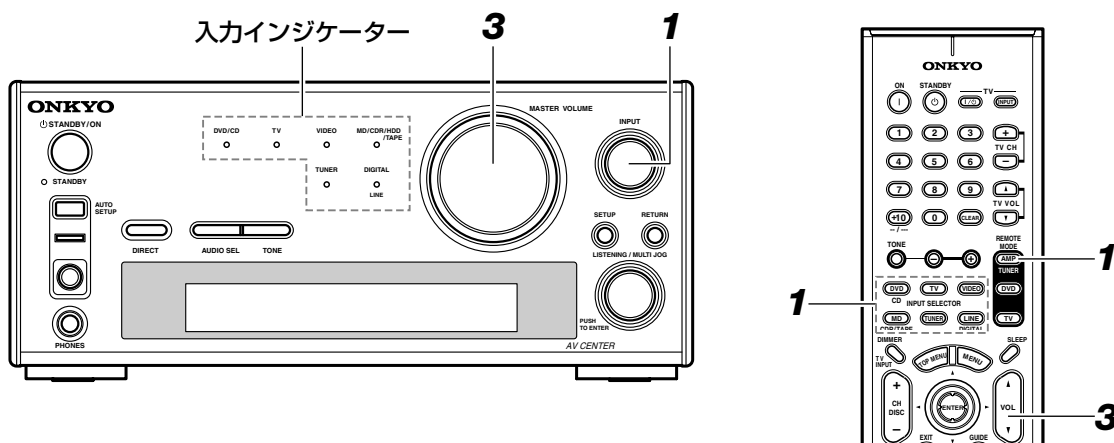
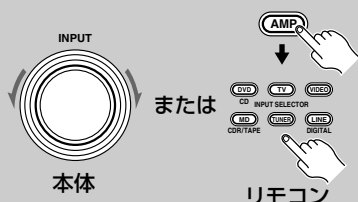
MD ➡ TAPE ➡ CDR ➡ HDD

ご注意

2004年9月現在、HDDに対応するハードディスクレコーダーは販売されていません。

映画・音楽を鑑賞する（基本編）

接続した機器を再生する

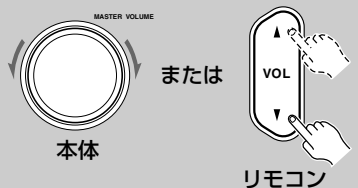
1

再生する機器を選ぶ

本体のINPUTつまみを回します。または、リモコンのAMPボタンを押してからINPUT SELECTORボタンを押します。
選択された入力インジケーターが点灯します。

2

選んだ機器の再生を始める

再生機器で音声出力設定が必要な場合もあります。

3

本体のMASTER VOLUMEつまみ、またはリモコンのVOLUME▲/▼ボタンで音量を調整する

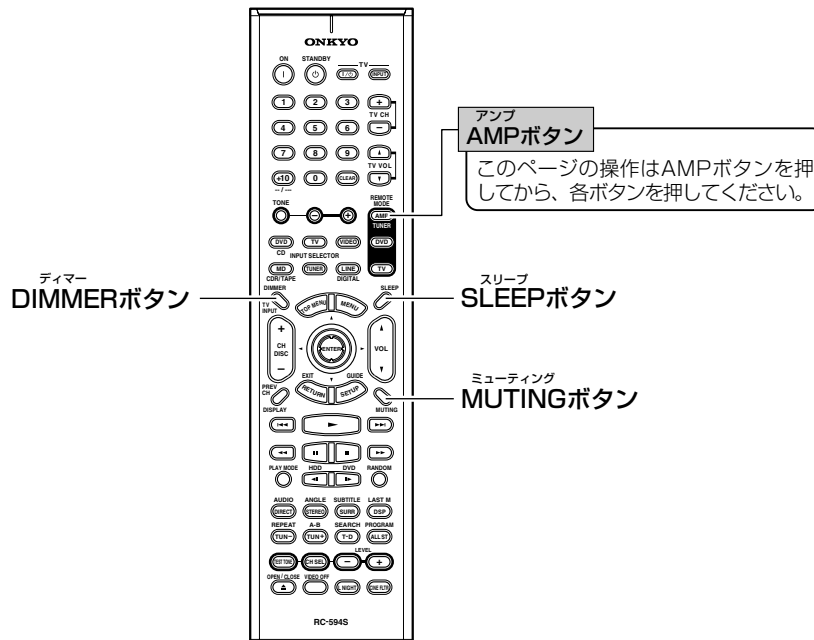
音量は基本的にMin・1・2‥‥78・79・Maxまでの範囲で調整できます。

！ヒント

本機はホームシアターでお楽しみいただく製品ですので、ボリューム値を細かく設定できるように音量幅を大きく持たせています。お好みで調整してください。
簡単スピーカー設定（28ページ）や、スピーカーの音量レベル（47ページ）を調整すると、ボリュームの最大値が変化します。

4

リスニングモードを楽しむ

詳しくは35〜38ページをご覧ください。

一時的に音量を小さくする

リモコンのMUTING（ミューティング）ボタンを押す

表示部に「MUTING」が点滅します。

■解除するには

もう一度MUTINGボタンを押してください。
（音量を変えたり、STANDBY（スタンバイ）ボタンを押した場合にも解除されます。）

スリープタイマーを使う

リモコンのSLEEP（スリープ）ボタンを押す

「Sleep 90 min」が表示され、90分後にスタンバイ状態になります。
ボタンを押すたびに10分単位で設定時間が短くなります。

- スリープタイマー設定中はSLEEPインジケーターが点灯します。

■残り時間を確認するには

スリープタイマーが予約されているときにSLEEPボタンを押すと、スタンバイ状態になるまでの残り時間が表示されます。ただし、残り時間が10分以下のときに再びSLEEPボタンを押すと、スリープタイマーは解除されます。

■スリープタイマーを解除するには

SLEEPインジケーターが消えるまで、くり返しSLEEPボタンを押すか、一度スタンバイ状態にしてから再度電源を入れるとスリープタイマーは解除されます。

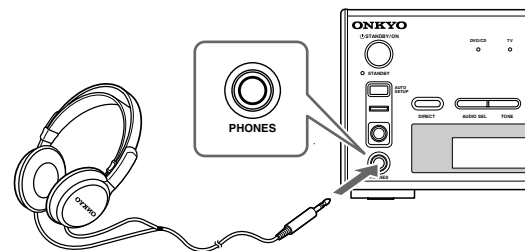
表示部の明るさを変える

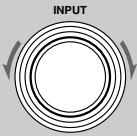
表示部の明るさを変えることができます。

リモコンのDIMMER（ディマー）ボタンを押す

押すたびに以下のように明るさが変わります。

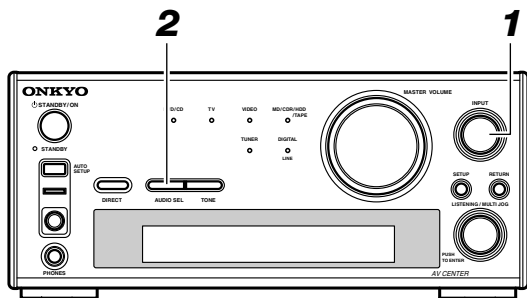
やや暗い → **暗い** → **消灯** → **ふつう** → **やや暗い**

ヘッドホンで聞く

PHONES（フォーンズ）端子にヘッドホンのステレオミニプラグを接続する

- 接続する時は音量を下げてください。
- スピーカーからの音が消えます。
- 「Direct（ダイレクト）」以外のリスニングモードを選択している場合は、ヘッドホンを接続すると自動的に「Stereo（ステレオ）」になり、ヘッドホンのプラグを抜くと元のリスニングモードに戻ります。
- ヘッドホン接続時は、「Direct」または「Stereo」のリスニングモードが選択できます。
- マルチチャンネル入力を選んでいるときは、左右フロントチャンネルの音声のみ聞こえます。

映画・音楽を鑑賞する（応用編）

マルチチャンネル接続した機器を再生する

DVDプレーヤーとマルチチャンネル接続をしている場合、DVDオーディオやスーパーオーディオCDなどの再生をお楽しみいただけます。22ページの通り正しく接続されていることを確認してください。

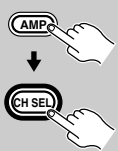
マルチチャンネル再生をする

1 INPUTつまみを回して、「DVD」を表示させる

INPUT

2 AUDIO SELボタンをくり返し押して、「Multi Auto」を表示させる

DVDオーディオを再生するときは：

「Multi Auto」を表示中にLISTENING/MULTI JOGダイヤルを回して「Multich」を表示させる

3 DVDプレーヤーを再生する

ご注意

- 「Multi Auto」や「Multich」を選んでいるときは、Directリスニングモードを選ぶことができます。また、それ以外のリスニングモードを使用中に「Multi Auto」や「Multich」にすると、リスニングモードは解除されます。
- 「Multich」に設定しているときは、アナログマルチチャンネル以外の音声を出力しません。DVDオーディオの再生が終わったら、AUDIO SELボタンをくり返し押して、「Auto」または「Multi Auto」を表示させてください。

マルチチャンネル再生時のスピーカー音量を調整する

マルチチャンネル音声を再生中、各スピーカーの音量をお好みに調整することができます。

1 AMPボタンを押してからCH SELボタンを押して、調整するスピーカーを選ぶ

CH SELボタンを押すたびに、次の順でスピーカーが切り換わります。

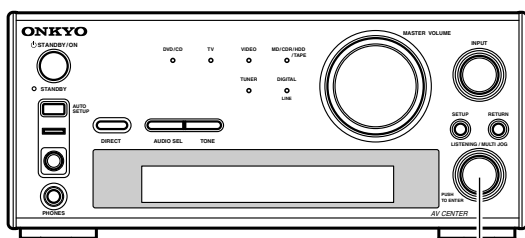
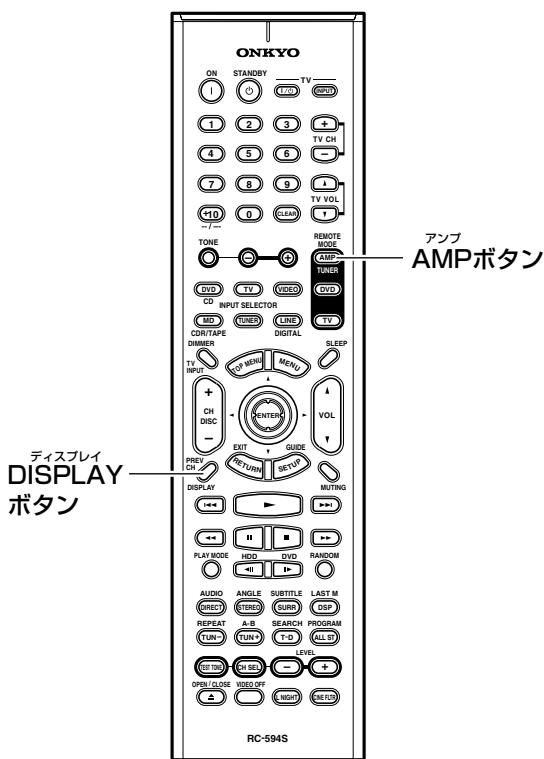
左フロントスピーカー →センタースピーカー
↑ ↓
サブウーファー 右フロントスピーカー
↑ ↓
左サラウンドスピーカー ←右サラウンドスピーカー

2 LEVEL＋/－ボタンを押して、音量を調整する

－12dB～+12dBの範囲で調整できます。

- サブウーファーは－15ｄB～+12ｄBの範囲で調整できます。

ご注意

マルチチャンネル音声の各スピーカーレベルは、28、29ページの簡単スピーカー設定や47ページのテストトーンで設定するスピーカーレベルとは異なります。マルチチャンネル再生以外での再生時には反映されません。

表示を確認する

1

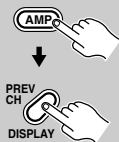
AMP（アンプ）ボタンを押してから、DISPLAY（ディスプレイ）ボタンを押す

AMP

PREV CH DISPLAY

または

LISTENING / MULTI JOG

PUSH TO ENTER

- 入力されている信号により、表示される内容は異なります。
- DISPLAYボタンを押すたびに、表示内容が右記のように切り換わります。

！ヒント

本体のLISTENING（リスニング）/MULTI（マルチ） JOG（ジョグ）ダイヤルを押して表示を確認することもできます。

● 入力信号がアナログのとき

入力ソースと音量 ←→ リスニングモード

STEREO
DVD Stereo

● 入力信号がPCMのとき

→ 入力ソースと音量 → サンプリング周波数＊1 → 入力ソースとリスニングモード → サンプリング周波数＊1 →

PCM
PCM fs : 48 kHz

● 入力信号がPCM以外のデジタル信号のとき

→ 入力ソースと音量 → 入力信号とフォーマット＊1,2 → 入力ソースとリスニングモード → 入力信号とフォーマット＊1,2 →

＊1 入力信号にプログラム情報がないときは、表示されません。サンプリング周波数やフォーマット表示状態で、約3秒経過すると、元の表示に戻ります。

＊2 フォーマット表示の意味

A :入力信号に含まれているフロントチャンネルの数
- 3: 左フロント、センター、右フロントスピーカーの3チャンネル
- 2: 左フロント、右フロントスピーカーの2チャンネル
- 1: モノラル（1チャンネル）

B :入力信号に含まれているサラウンドチャンネルの数
- 3: 左サラウンド、右サラウンド、サラウンドバックスピーカーの3チャンネル
- 2: 左サラウンド、右サラウンドスピーカーの2チャンネル
- 1: モノラル（1チャンネル）

C :入力信号に含まれているLFE（低域効果音）の有無
- 1: あり
- : なし

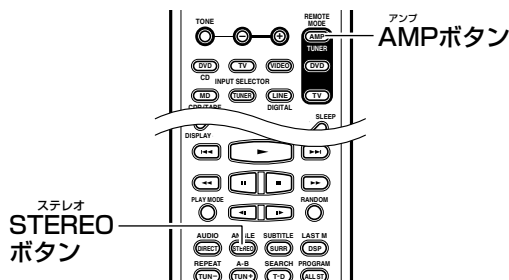
たとえば、「3/2.1」と表示された場合は、フロント3チャンネルとサラウンド2チャンネル、それにLFEがそれぞれ独立して記録された5.1チャンネルソースであることを表しています。

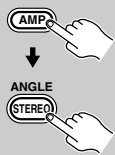
● 入力信号が音声多重放送（2ヶ国語放送など）のとき

→ 入力ソースと音量 → 入力信号と音声の数 → 入力ソースと選択音声 → 入力信号と音声の数 →

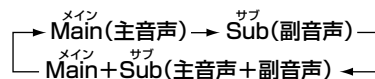
AAC
AAC :1+1

映画・音楽を鑑賞する（応用編）

主音声と副音声を切り換える

AACやドルビーデジタル信号の音声多重放送が入力されているとき、主音声と副音声を切り換えることができます。DISPLAYボタンを押して、表示部に音声の数が「1＋1」と表示されたら音声多重放送です。

1

AMPボタンを押してから、STEREOボタンを押す

STEREOボタンを押すたびに、以下のように切り換わります。

Main（主音声）→ Sub（副音声）→ Main＋Sub（主音声＋副音声）→ Main（主音声）…

MAIN：音声多重放送で、左右スピーカーから主音声が出力されます。

SUB：音声多重放送で、左右スピーカーから副音声が出力されます。

MAIN＋SUB：音声多重放送で、左スピーカーから主音声、右スピーカーから副音声が出力されます。

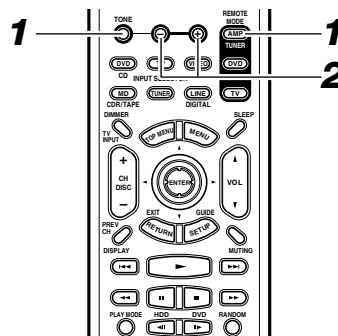
！ヒント

本体のLISTENING/MULTI JOGダイヤルを回しても操作することができます。

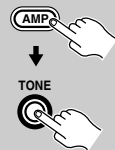
ご注意

- PCMの音声多重信号は、本機での主音声・副音声の切り換えができませんので、再生機器側で切り換えてください。
  また、再生機器側で主音声・副音声を切り換えても、デジタル出力には反映されない場合があります。この場合、本機とアナログ接続をしてから、再生機器側で音声の切り換えを行ってください。
- BSデジタルチューナーや地上デジタルチューナーでAACやドルビーデジタルの音声多重信号を受信しているのに、本機で主音声·副音声の切り換えができないとき、チューナー側のデジタル出力設定がPCM出力になっている場合があります。このような場合は、チューナー側で設定を変更してください。

低音、高音（Bass、Treble）を調整する

「ダイレクト」以外のリスニングモード時に左右フロントスピーカーのみ音質を調整することができます。

- DVDのマルチチャンネル入力を再生している場合は、AMPボタンを押してからSURRボタンを押して「Tone On」と表示させると、トーンコントロール機能が働くようになります。

DVD Tone On

1

AMPボタンを押してからTONEボタンを（くり返し）押して、「Bass（低音）」または「Treble（高音）」を選ぶ

2

＋/－ボタンを押して、レベルを調整する

お買い上げ時は「0」ですが、－12dB～＋12dBの範囲内で2dBずつ調整できます。

！ヒント

本体で操作するときはTONEボタンをくり返し押して「Bass」または「Treble」を選び、LISTENING/MULTI JOGダイヤルを回して調整してください。

映画・音楽を鑑賞する（リスニングモード編）

リスニングモードを使う

リスニングモードを選ぶ

本体のボタンで選ぶ

1

INPUTつまみを回して、再生する機器を選ぶ

2

選んだ機器を再生する

3

LISTENING/MULTI JOGダイヤルを回して、リスニングモードを選ぶ

LISTENING/MULTI JOGダイヤル：
対応できるすべてのリスニングモードに切り換えます。

DIRECTボタン：
リスニングモードを「ダイレクト」に切り換えます。
39ページのDolby Digital/DTS/AACの設定によって対応するリスニングモードが変わります。

リモコンで選ぶ

1

AMPボタンを押してからINPUT SELECTORボタンを押して、再生する機器を選ぶ

2

選んだ機器を再生する

3

リスニングモードボタンを押してリスニングモードを選ぶ

DIRECTボタン：
リスニングモードを「ダイレクト」に切り換えます。

STEREOボタン：
リスニングモードを「ステレオ」に切り換えます。 AACやドルビーデジタルの音声多重信号が入力されているときは、主音声と副音声を切り換えます。

SURRボタン：
Dolby DigitalやDTSのリスニングモードに切り換えます。３９ページのＤｏｌｂｙ Digital/DTS/AACの設定によってリスニングモードが変わります。マルチチャンネル入力のときは、「Tone On」に設定することができます。

DSPボタン：
オンキヨー独自のリスニングモードの中から選びます。

ALL STボタン：
リスニングモードを「オールチャンネルステレオ」に切り換えます。

T-Dボタン：
リスニングモードを「シアターディメンショナル」に切り換えます。

映画・音楽を鑑賞する（リスニングモード編）

入力信号の種類と対応するリスニングモード

入力信号の種類	PCM または アナログ	PCM	Dolby Digital			DTS				AAC		
		96kHz	3/2.1 3/3.1など	2/0 (ステレオ)	その他	3/2.1	2/0 (ステレオ)	*5 96/24	DTS-ES	＊/2	2/0	その他
主なソース ＼ リスニングモード	カセット/CD ビデオ/ラジオ テレビ、LD	DVD 96k/24bit など	DVDビデオなど			DVDビデオ、LD、CDなど				BSデジタル放送など		
Direct	○	○										
Stereo	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
PLII Movie/Music/ Game *1	○			○			○				○	
PLIIx Movie/Game*2 PLIIx Music*2	○ ○		 ○*3	○ ○		 ○*3	○ ○	 ○*3		 ○*3	○ ○	
Neo: 6 Cinema/Music	○											
Dolby Digital Dolby Digital EX *4			○ ○		○ 							
DTS DTS 96/24						○ 		 ○	○ 			
DTS-ES Discrete *4 DTS-ES Matrix *4									Discrete Matrix			
DTS+Neo:6 *3 DTS+Dolby EX *3						○ ○		○ ○				
AAC AAC+Dolby EX *3										○ ○		○
オンキヨー独自のDSP Orchestra	○											
オンキヨー独自のDSP Unplugged	○											
オンキヨー独自のDSP Studio-Mix	○											
オンキヨー独自のDSP TV Logic	○											
オンキヨー独自のDSP All Ch Stereo	○											
Theater-Dimensional	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

＊１：Surround Back SpeakerがNoneに設定されているとき（44ページ）に選択できます。
＊２：Surround Back SpeakerがNone以外に設定されているとき（44ページ）に選択できます。
＊３：Surround Back SpeakerがNone以外に設定されていて（44ページ）、「Dolby Digital/DTS/AACの設定をする」（39ページ）がOnに設定されているときに選択できます。
＊４：Surround Back SpeakerがNone以外に設定されていて（44ページ）、「Dolby Digital/DTS/AACの設定をする」（39ページ）がOnもしくはAutoに設定されているときに選択できます。
＊５：DTSの96kHz24bit対応の信号を再生する場合、リスニングモードがステレオまたはDTS96/24のときは96kHzとして、それ以外のリスニングモードを選んだときはDTSの48kHzとして処理されます。

！ヒント

入力信号の種類は、リモコンのDISPLAYボタンを押して表示部で確認することができます。（☞33ページ）

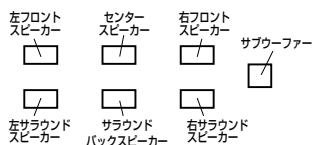
聴きたいリスニングモードが選べない

- デジタル接続はしましたか？（☞22、23、25ページ）
  ドルビーデジタルやDTSのリスニングモードを楽しむときは、再生機器とデジタル接続をする必要があります。
- ドルビーデジタルやDTSのリスニングモードは、それらの信号が入力されたときのみ選ぶことができます。
- 再生機器側のデジタル出力設定は、正しいですか？
  ドルビーデジタルやDTSロゴのついたDVDの本編を再生中に、本機のPCM表示が点灯していたら、再生機器側のデジタル出力設定がPCMになっている場合があります。再生機器側で他の信号も出力するように設定してください。

リスニングモードの種類について

本機のリスニングモードを使うと、お部屋にいながら映画館やコンサートホールなどの臨場感あふれる雰囲気を味わって頂けます。本機には以下のリスニングモードがあります。

下のイラストは、そのリスニングモード時に出力されるスピーカーを表します。

左フロントスピーカー　センタースピーカー　右フロントスピーカー　サブウーファー
左サラウンドスピーカー　サラウンドバックスピーカー　右サラウンドスピーカー

Direct

左右フロントスピーカーからのみ出力されます。もともとの音源に手を加えない、ピュアな音をお楽しみいただけます。

Stereo

左右フロントスピーカーとサブウーファーから出力されます。

Dolby Pro Logic II

2チャンネルで収録されたソースを5.1チャンネルで再生するモードです。映画に最適なMovieモード、音楽再生に最適なMusicモードとゲームに最適なGameモードの3つのモードが選択できます。Movieモードでは、従来モノラルで帯域の狭かったサラウンドチャンネルがステレオ再生になり、それぞれ独立した音を出すため、より移動感のある再生が楽しめます。DOLBY SURROUND マークのついたVHSやDVDビデオ、または一部のテレビ番組再生時に楽しむことができます。また、Musicモードでは、2チャンネルの音楽に対しても自然な音場感をサラウンドチャンネルより再生します。CDなどのステレオ音楽や、ライブを記録したDVDにも適しています。Gameモードでは、ステレオ入力されたゲーム機の音声から立体感のある音場を作り出します。

Dolby Pro Logic IIx

PCM96kHz以外の2チャンネルで収録されたソースを6.1チャンネルで再生するモードです。明瞭なサウンドはそのままに、かってないほど自然でなめらかなサラウンド体験が得られます。Movieモードでは、DOLBY SURROUND マークのついたVHSやDVDビデオ、または一部のテレビ番組再生時に楽しむことができます。MusicモードではCDなどのステレオ音楽やライブを記録したDVDに適しています。また、Musicモードでは5.1チャンネルで収録された音楽を6.1チャンネルで再生することができます。Gameモードでは、ステレオ入力されたゲームなどに適しています。

Neo:6

2チャンネルで収録されたソースを6.1チャンネルで再生するモードです。6チャンネルすべてに広い周波数帯域が確保され、チャンネル間の独立性も優れています。映画に最適なCinemaモードと音楽再生に最適なMusicモードの2つのモードがあります。Cinemaモードでは、6.1チャンネルのソースとしてリアルな移動感にあふれたサラウンドが再現されます。音声がステレオのVHSやDVDビデオ、テレビ番組に使用します。Musicモードでは、サラウンドチャンネルを使用することで通常のステレオ出力では得られない自然な音場を生み出します。2チャンネルの音楽に対しても自然な音場感をサラウンドチャンネルより再生します。Musicモードは音声がステレオのCDなどに適しています。

Dolby Digital

劇場やコンサートホールさながらの臨場感あふれるサウンドが体験できるサラウンドモードです。DOLBY DIGITAL マークのついたDVD、LDなどの再生時に楽しむことができます。

Dolby Digital EX

5.1チャンネルに背面のサラウンドバックチャンネルを増やし、6.1チャンネルにすることで、より空間表現力を高め、360度の回転や頭上を通過するような移動音効果をリアルに体感できます。サラウンドバックチャンネルの音声は左右サラウンドチャンネルに振り分けられるため、通常の5.1チャンネル環境で再生することも可能です。5.1チャンネルで記録された DOLBY DIGITAL マークのついたDVD,LDの再生時に楽しむことができます。

DTS

限りなく原音に忠実なサラウンドを再現するデジタルサラウンド方式です。完全に分離させた5.1チャンネルで膨大となる音声データを、可能な限り原音に近い状態で圧縮したデジタルデータです。極めて高音質の音声を提供します。再生するにはDTS出力が可能なDVDプレーヤーが必要です。dts マークのついたCD、DVD、LDなどを再生時に楽しむことができます。

DTS 96/24

dts 96/24 マークのついたCD、DVD、LDなどに使用できるリスニングモードです。きめ細やかな音声をお楽しみいただけます。

DTS-ES Discrete 6.1

DTSにサラウンドバックを追加した、6.1チャンネルサラウンドです。DTS6.1チャンネル収録ソフトに対応しています。
追加されたサラウンドバックチャンネルを含めて6.1チャンネルすべてが完全に独立してデジタル記録されているため、立体感、移動感などがより鮮明に再現できます。dts ES のついたCD、DVD、LDなどを再生時に楽しむことができます。

DTS-ES Matrix 6.1

DTSにサラウンドバックを追加した、6.1チャンネルサラウンド。DTS5.1チャンネル収録ソフトを6.1チャンネル再生します。
DTS5.1チャンネル収録ソフトにはサラウンドバックチャンネルの情報も組み込まれているため、それぞれのチャンネルを6.1チャンネルに復元して再生します。
dts ES マークのついたCD、DVD、LDなどを再生時に楽しむことができます。

DTS ＋ Neo:6

DTSの5.1チャンネルで収録されたソースをNeo:6技術を使って6.1チャンネルで再生します。dts マークや dts 96/24 マークのついたCD、DVD、LDなどを再生時に楽しむことができます。

DTS ＋ Dolby EX

DTSの5.1チャンネルで収録されたソースをDolby EX技術を使って6.1チャンネルで再生します。
dts マークや dts 96/24 マークのついたCD、DVD、LDなどを再生時に楽しむことができます。

AAC

MPEG-2 AAC方式で圧縮されたデジタルデータで、最大5.1チャンネルのサラウンド音声を提供します。
BSデジタル放送などのAACソースを再生するために使用します。

AAC ＋ Dolby EX

MPEG-2 AAC方式で圧縮されたデジタルデータを6.1チャンネルで再生します。

■オンキヨー独自のリスニングモード（DSP）

アナログ信号やCDなどのPCM信号を再生しているときに楽しむことができます。

Orchestra

クラシックやオペラに適したモードです。
センターチャンネルをカットするとともに、音声イメージが全体に広がるようなサラウンド感を強調。
大ホールで聞いているような自然な響きが楽しめます。

Unplugged

アコースティックやボーカル、ジャズなどに適したモードです。フロントの音場イメージを重視することで、あたかもステージの前で聞いているような音場イメージをつくります。

Studio-Mix

ロック、ポピュラーミュージックなどに適したモードです。パワフルな音響イメージを再現した臨場感あふれるサウンドは、あなたをあたかもクラブハウスにいるような気分にするでしょう。

TV Logic

放送局のスタジオから放映されているテレビ放送に適したモードです。
局のスタジオにいるような臨場感を高めます。すべてのサラウンド音声を強調し、会話音声を明瞭にします。

All Ch Stereo

BGMとして音楽をかけるときに便利なモードです。すべてのチャンネルでステレオ再生しますので迫力ある音場をお楽しみ頂けます。

Theater-Dimensional　または

2つまたは3つのスピーカーであたかも5.1チャンネル再生しているかのようなバーチャル再生をお楽しみいただけます。左右それぞれの耳に届く音声の特性を制御することによって実現しています。反射音成分が大きいと期待した効果が得られない場合があるため、できるだけ反射音の少ない環境をおすすめします。

2チャンネルや3チャンネル接続の場合

2チャンネル（フロントスピーカーのみ）や3チャンネル（フロントスピーカーとセンタースピーカーのみ）接続した場合、以下のリスニングモードが選べます。

2チャンネル接続：Direct、Stereo、Theater-Dimensional
3チャンネル接続：Direct、Stereo、PLII、Neo:6 Cinema、Dolby Digital、DTS、DTS96/24、AAC、Theater-Dimensional

これら以外のリスニングモードもお楽しみになるときは、オンキヨー製3.1CHスピーカーシステムUWA-205などと組み合わせて6.1チャンネル再生してください。（☞19ページ）

Dolby Digital/DTS/AACの設定をする（サラウンドバックスピーカーを使用しているときの設定）

サラウンドバックスピーカーを使用しているとき、Dolby Digitalソース/DTSソース/AACソースを6.1チャンネル再生するか5.1チャンネル再生するかを設定することができます。この設定は、それらのソースを再生しているときしか設定できません。

1

AMPボタンを押してからSETUPボタンを押す

2

▲/▼ボタンを押して「4. Audio Adjust」を表示させ、ENTERボタンを押す

```
4.Audio Adjust
```

3

Dolby Digitalソースを再生しているとき

▲/▼ボタンを押して「SB（DolbyD）」を表示させます。

DTSソースを再生しているとき

▲/▼ボタンを押して「SB（DTS）」を表示させます。

AACソースを再生しているとき

▲/▼ボタンを押して「SB（AAC）」を表示させます。

4

◀/▶ボタンを押して、設定を選ぶ

5

SETUPボタンを押す

設定が終了します。

！ヒント

本体のSETUPボタンとLISTENING/MULTI JOGダイヤルを使って設定することもできます。

Dolby Digital/Dolby Digital EX

On：ドルビーデジタルの識別信号の有無にかかわらず、6.1チャンネル再生をします。
リスニングモードは、Dolby Digital EXとPLIIx Musicを選ぶことができます。

Off：ドルビーデジタルの識別信号があるディスクでもDolby Digital（5.1チャンネル）再生を行います。

Auto：ドルビーデジタルの6.1チャンネル識別信号があるときは、Dolby Digital EXに切り換わり、6.1チャンネル再生をします。
ドルビーデジタルの識別信号がないときは、Dolby Digital（5.1チャンネル）再生をします。

ご注意

再生する信号にサラウンドチャンネルの情報がない、またはモノラルのときは、上記の設定をしてもDolby Digital（5.1チャンネル）再生になります。

DTS/DTS-ES Discrete/DTS-ES Matrix

Auto：dts ESがあるディスクを再生するときは、DTS-ES Discrete 6.1またはDTS-ES Matrix 6.1に切り換わり、6.1チャンネル再生をします。
dts ES がない場合はDTS（5.1チャンネル）再生になります。

On：dts ESの有無にかかわらず、6.1チャンネル再生をします。dts ES があるディスクを再生するときは、DTS-ES Discrete 6.1またはDTS-ES Matrix 6.1に自動的に切り換わります。
dts ESがない場合は、DTS＋Neo:6、DTS＋Dolby EXまたはPLIIx Musicに切り換えることができます。

Off：dts ESがあるディスクでもDTS（5.1チャンネル）再生を行います。

AAC/AAC＋ Dolby EX

Off：AACソースを5.1チャンネル再生（AAC）します。

On：AACソースを6.1チャンネル再生（AAC＋Dolby EX）します。

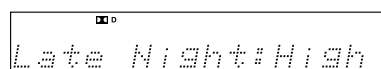
設定をする（リスニングモード編）

レイトナイト機能を使う（ドルビーデジタルのみ）

劇場用に作られた映画音声は大きな音と小さな音の差が大きいため、環境音や人の会話などの小さな音を聞くには音量を上げる必要があります。レイトナイト機能は音量幅を小さくすることができるため、全体の音量を上げずに小さな音も聞こえます。夜中などに音量を絞って映画を鑑賞するときに便利です。
この機能は、本機をスタンバイ状態にすると解除されます。

1

リモコンのAMP（アンプ）ボタンを押してから、L NIGHT（レイト ナイト）ボタンを（くり返し）押す

Late Night:High

Off（オフ）：レイトナイト機能をオフにします。
Low（ロー）：音量幅を小さくします。
High（ハイ）：音量幅をさらに小さくします。

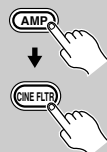
ご注意
- レイトナイト機能は、ドルビーデジタルソフトにのみ効果があります。
- レイトナイト効果は、ドルビーデジタルソフトによって効果が少なかったり、効果がない場合もあります。

！ヒント

オーディオアジャストメニューから設定することもできます。

シネマフィルター機能を使う

高音域が強調されたサウンドトラックをホームシアター用に補正します。フロントスピーカーからの高音域が強すぎる場合に設定します。シネマフィルターの設定は、リスニングモードがドルビーデジタル、ドルビーデジタルEX、ドルビー プロ ロジックII ムービー、ドルビー プロ ロジックIIx ムービー、DTS、DTS-ES、DTS+Neo:6、DTS Neo:6 シネマ、DTS 96/24、DTS＋Dolby EX、AAC、AAC＋Dolby EXの場合に働きます。

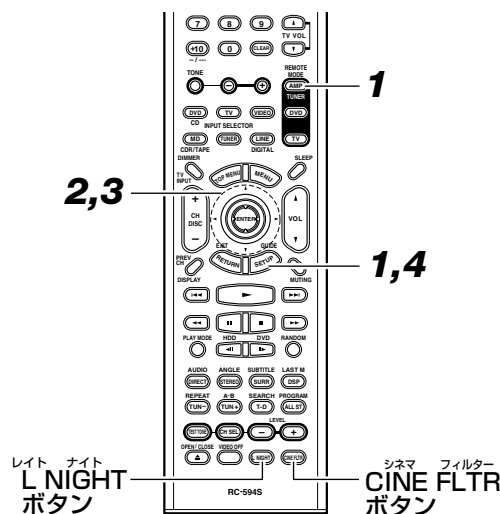
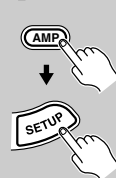
1

リモコンのAMPボタンを押してから、CINE FLTR（シネマ フィルター）ボタンを（くり返し）押す

On（オン）：高音域の補正をします。
Off（オフ）：シネマフィルター機能をオフにします。

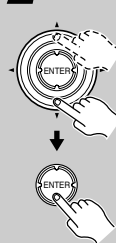
！ヒント

オーディオアジャストメニューから設定することもできます。

音響効果の設定をする（Audio Adjust（オーディオ アジャスト）メニュー）

リスニングモードや接続した機器によって音響効果をお好みに設定することができます。設定するリスニングモードにしてから、音質の調整を行ってください。

1

AMP（アンプ）ボタンを押してから、SETUP（セットアップ）ボタンを押す

2

▲/▼ボタンを押して「4. Audio Adjust（オーディオ アジャスト）」を選び、ENTER（エンター）ボタンを押す

4.Audio Adjust

3

▲/▼ボタンで設定したい項目を選び、◀/▶ボタンで調整する

- 表示されるAudio Adjustメニューは、リスニングモードによって異なります。

4

SETUPボタンを押す

設定が終了します。

！ヒント

本体のSETUPボタンとLISTENING/MULTI JOGダイヤルでも操作することができます。

Mono/2ch/96kHz信号再生時の重低音を調整する

Double Bass

「1. SP Config（スピーカー環境）設定」（☞43ページ）でサブウーファーを「Yes（有り）」にしていて、フロントスピーカーを「Large」に設定している場合、サブウーファーをさらに強調させることができます。モノラル信号、2チャンネル信号、96kHz信号入力時に効果があります。

On ：サブウーファーを強調します。
Off ：サブウーファーを強調しません。

Dolby Digitalのレイトナイト機能を使う

Late Night

40ページと同じ設定です。

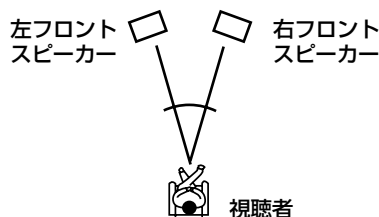
フロントスピーカーからの高音域を調整する

Cinema Filter

40ページと同じ設定です。

シアターディメンショナル時の調整（Theater-Dimensional）

Listening Angle（Lstn Angl）

視聴者から見た左右フロントスピーカーに対する角度を設定します。シアターディメンショナルはこの角度をもとにバーチャル処理を行います。左右フロントスピーカーから等距離で、かつ選択したリスニングアングルに近い視聴位置が理想です。お買い上げ時の設定は「Normal（30°）」ですが「Narrow（20°）」や「Wide（40°）」も選べます。

DTS Neo:6 Music時の音質を調整する

Center Image

「DTS Neo:6 Music」は、2チャンネルで収録されたソースを6チャンネルで再生するリスニングモードで、左右フロントチャンネルからいくらか差し引いた音声を使ってセンターチャンネルの音声を作り出します。どの程度音声を差し引いてセンターチャンネルのイメージを作るかを調整します。初期設定は「3」ですが、0～5の範囲で選択できます。

!ヒント

- 「0」は左右のチャンネルから半分（−6 dB）差し引いてセンターイメージを作るため、より中央に寄った感じになります。視聴位置が中央からかなりずれている場合に効果的です。
- 「5」は左右のチャンネルから音声が差し引かれないため元のステレオ音声のバランスのまま出力されます。

Dolby Pro Logic II Music/Dolby Pro Logic IIx Music時の音質を調整する

ご注意

Dolby Pro Logic IIx Musicで5.1チャンネル収録されたソースを6.1チャンネル再生するときは、これらの設定はできません。

Panorama

前方の音場を横方向まで広げることができます。
初期設定は「Off」に設定されています。

On：パノラマ効果をオンにします。
Off：パノラマ効果をオフにします。

Dimension

音場を前方または後方へ移動させることができます。
初期設定は「3」に設定されています。

!ヒント

- 「3」を中心に、2、1、0にすると後方へ、4、5、6にすると前方へ移動します。
- 広がり感がありすぎたり、サラウンドが強すぎる場合は音場を前方に調整するとバランスが良くなります。 逆にモノラル感や音場が狭い感じの場合は音場を後方に調整するとバランスがよくなります。

Center Width

センタースピーカーの音の広がり幅を調整することができます。Dolby Pro Logic II/Dolby Pro Logic IIxでは、センタースピーカーがある場合はセンターチャンネルの信号をセンタースピーカーからのみ出力します。（センタースピーカーがない場合は、左右フロントスピーカーに等分に振り分け、幻想のセンター音像を作ります。）
この設定では、センタースピーカーと左右フロントスピーカーの配合を調整し、センターの音の重量感を調整することができます。初期設定は「3」ですが、0～7の範囲で選択できます。

録音する

あなたが録音したものは、個人として楽しむほかは著作権法上、権利者に無断で使用できません。

ご注意

- サラウンド効果は録音されません。
- マルチチャンネル音声は録音できません。
- DIGITAL IN端子から入力されたデジタル信号は、録音できません。
- 録音中にソースを切り換えると、新しく選択されたソースが録音されます。
- VIDEO IN端子に入力された音声は、VIDEO OUT端子に出力されません。同様にMD/CDR/HDD/TAPE IN端子に入力された音声は、MD/CDR/HDD/TAPE OUT端子に出力されません。これは、出力と入力にループができて機器が故障するのを防ぐためです。

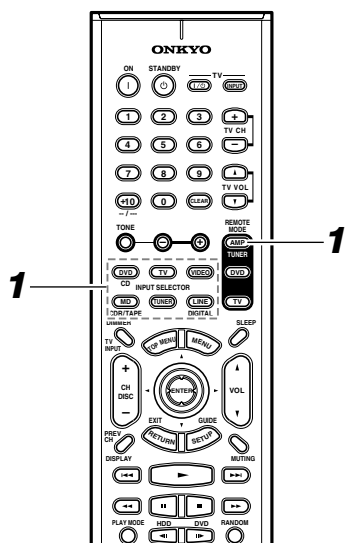
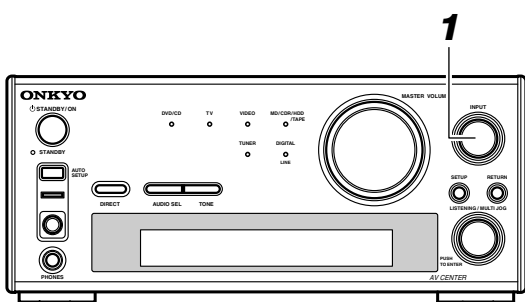
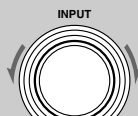
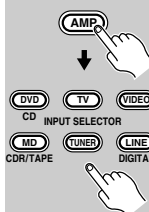
録音する

1 録音する機器（ソース）を選ぶ

本体

または

AMP

DVD CD　TV　VIDEO
INPUT SELECTOR
MD CDR/TAPE　TUNER　LINE DIGITAL

本体のINPUTつまみを回すか、リモコンのAMPボタンを押してから、INPUT SELECTORボタンを押して録音したい機器（ソース）を選びます。

2 録音する機器の準備をする

- MDレコーダーやCDレコーダー、テープデッキなどを録音待機状態にします。
- 録音レベルの調整はMDレコーダーやCDレコーダー、テープデッキで行ってください。
- 録音のしかたについては、それぞれの取扱説明書をご覧ください。

3 録音を始める

手順***1*** で選んだソースを再生します。

製品の故障により、正常に録音できなかったことによって生じた損害（CDレンタル料等）については、保障の対象になりませんので大事な録音をするときは、あらかじめ正しく録音できることを確認の上、録音を行ってください。

SA-907FX(40-48)(SN29343884)　42　04.9.9, 6:23 PM

ブラック

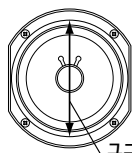
設定をする（応用編）

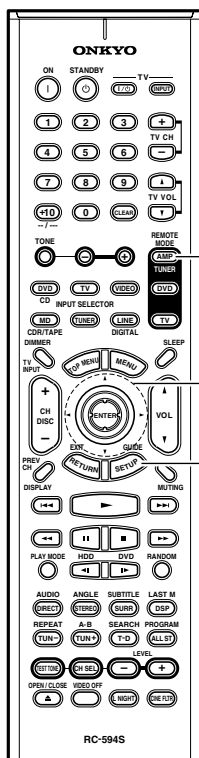
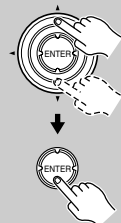
スピーカーの設定をする（応用編）

「スピーカーの設定をする（応用編）」では、28、29ページの「簡単スピーカー設定」の設定内容を手動で変更することができます。ここで設定を行うと、AUTO SETUPインジケーターは消灯します。

スピーカーの有無を設定する

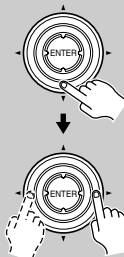
接続したスピーカーの「有/無」と「大きさ」を設定します。

スピーカーの大きさの目安

目安としては、お手持ちのスピーカーのユニット部が直径16cm以上の場合は「Large」、それ以下の場合は「Small」を選んでください。

マルチチャンネル再生時やヘッドホンを接続しているときは、設定できません。

1 リモコンのAMPボタンを押してから、SETUPボタンを押す

2 ▲/▼ボタンを押して「1. SP Config（スピーカー環境）」を選び、ENTERボタンを押す

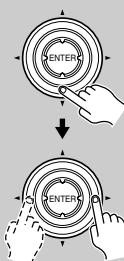
「Subwoofer」の設定が表示されます。

3 ◀/▶ボタンを押して、サブウーファーの「有/無」を選ぶ

Yes：サブウーファーを接続している場合
No：サブウーファーを接続していない場合

4 ▼ボタンを押して「Front」を選び、◀/▶ボタンでフロントスピーカーの大きさを選ぶ

Small：小型のフロントスピーカーを接続している場合
Large：大型のフロントスピーカーを接続している場合

ご注意

手順**3**で「No」を選択した場合、フロントスピーカーは「Large」に固定されるため、この項目は表示されません。

5 ▼ボタンを押して「Center」を選び、◀/▶ボタンでセンタースピーカーの設定をする

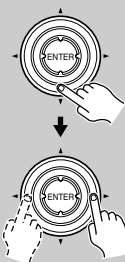
Small：小型のセンタースピーカーを接続している場合
Large：大型のセンタースピーカーを接続している場合
None：センタースピーカーを接続していない場合

ご注意

手順**4**で「Small」を選択した場合は、「Large」は選択できません。

▷次ページに続く

設定をする（応用編）

6

▼ボタンを押して「Surround」を選び、◀/▶ボタンで左右サラウンドスピーカーの設定をする

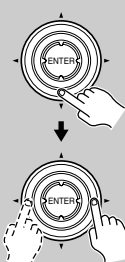
Small：小型の左右サラウンドスピーカーを接続している場合

Large：大型の左右サラウンドスピーカーを接続している場合

None：左右サラウンドスピーカーを接続していない場合

ご注意

手順**4** で「Small」を選択した場合は、「Large」は選択できません。

7

▼ボタンを押して「Surr Back」を選び、◀/▶ボタンでサラウンドバックスピーカーの設定をする

Small：小型のサラウンドバックスピーカーを接続している場合

Large：大型のサラウンドバックスピーカーを接続している場合

None：サラウンドバックスピーカーを接続していない場合

ご注意

- 手順**6** で「None」を選択した場合は、この項目は表示されません。
- 手順**6** で「Small」を選択した場合は、「Large」を選択することはできません。

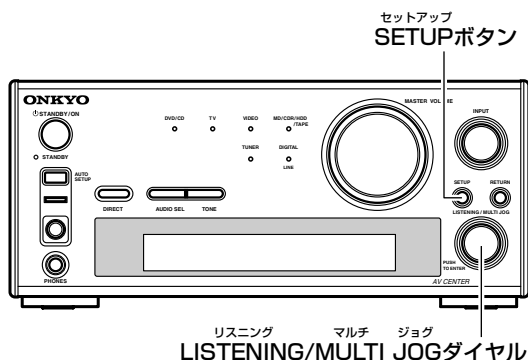
8

SETUPボタンを押す

設定が終了します。

！ヒント

本体のSETUPボタンとLISTENING/MULTI JOGダイヤルでも操作することができます。

■スピーカーの設定を本体で行うには

SETUPボタン

LISTENING/MULTI JOGダイヤル

1. SETUPボタンを押す。
2. LISTENING/MULTI JOGダイヤルを回して、設定したい項目を選ぶ。
   「1. SP Config」「2. SP Distance」
   「3. Level Cal」
3. LISTENING/MULTI JOGダイヤルを押す。
4. LISTENING/MULTI JOGダイヤルを回して、スピーカーまたは設定を選ぶ。
5. LISTENING/MULTI JOGダイヤルを押す。
   設定する項目が点滅します。
6. LISTENING/MULTI JOGダイヤルを回して、設定を変更する。
7. LISTENING/MULTI JOGダイヤルを押して、決定する。
8. 手順**4** ～**7** をくり返す。
9. SETUPボタンを押して、設定を終了する。

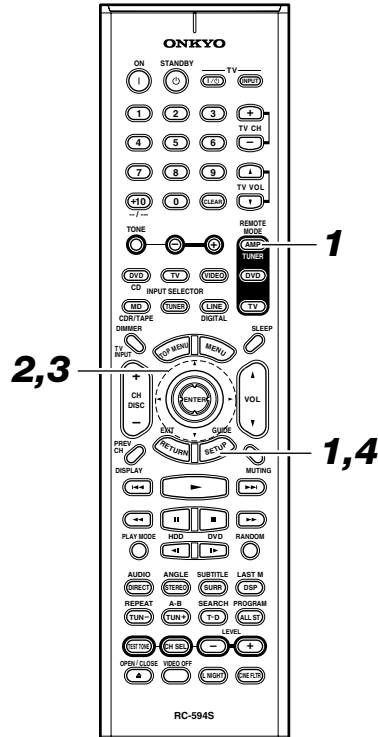
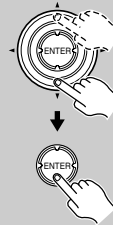
低音域の管理設定をする（クロスオーバー）

各スピーカーから出る低音のバランスを良くするために、スピーカーの大きさにあわせて低音域の設定をします。
目安としてサブウーファーがある場合は、フロントスピーカーのユニット部の直径を、サブウーファーが無い場合は「1.SP Config（スピーカー環境）」(☞43、44ページ）で最初に「Small」に設定したスピーカーユニットの直径を目安にします。

！ヒント

オンキヨー製3.1CHスピーカーシステムUWA-205の推奨値は「100」ですが、簡単スピーカー設定では、設定のしかたや組み合わせるスピーカーシステムによって、100に設定されない場合もあります。

ユニット部の直径	クロスオーバー設定値
20 cm 以上	60
16～20cm	80
13～16cm	100（初期設定）
9～13cm	120
9 cm 以下	150

マルチチャンネル再生時やヘッドホンを接続しているときは、設定できません。

1

AMPボタンを押してから、SETUPボタンを押す

2

▲/▼ボタンを押して「1. SP Config（スピーカー環境）」を選び、ENTERボタンを押す

3

▲/▼ボタンを押して「Crossover」を選び、◀/▶ボタンで設定する

クロスオーバー設定値を環境に合った数値に設定します。

4

SETUPボタンを押す

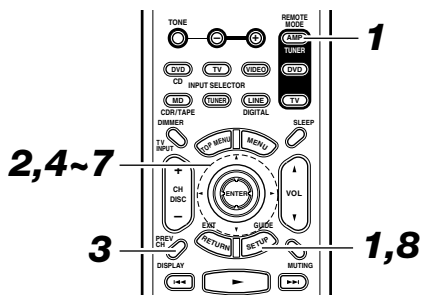
設定が終わったら、SETUPボタンを押します。

！ヒント

本体のSETUPボタンとLISTENING/MULTI JOGダイヤルでも操作することができます。(☞44ページ)

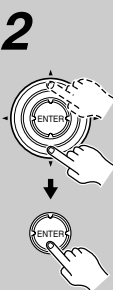
視聴位置からスピーカーまでの距離を設定する（スピーカーディスタンス）

視聴位置からスピーカーまでの距離を設定します。
距離を設定することで、それぞれのスピーカーから視聴位置までの音の届く時間を一定にし、ホームシアターをより快適にお楽しみいただけます。スタンバイ状態にしても記憶しています。
マルチチャンネル再生時やヘッドホンを接続しているときは、設定できません。

1

AMPボタンを押してからSETUPボタンを押す

2

▲/▼ボタンを押して「2. SP Distance」を選び、ENTERボタンを押す

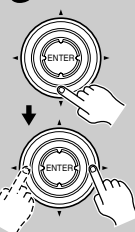
3

DISPLAYボタンを押して、設定する単位を切り換える

m：距離をメートルで設定する。0.3m単位で9mまで設定できます。
ft：距離をフィートで設定する。1ft単位で30ftまで設定できます。

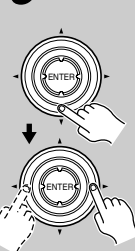
4

◀/▶ボタンで「Front」の距離を設定する

左右フロントスピーカーから視聴位置までの実際に近い数値に設定します。

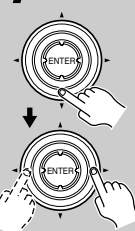
5

▼ボタンを押して「Center」を選び、◀/▶ボタンで距離を設定する

！ヒント
フロントスピーカーで設定した距離の±1.5mの範囲で調整できます。

6

▼ボタンを押して「Surr Right」を選び、◀/▶ボタンで距離を設定する

この手順をくり返し、「サラウンドバックスピーカー」「左サラウンドスピーカー」もそれぞれ視聴位置までの実際に近い数値に設定します。

！ヒント
フロントスピーカーで設定した距離の−4.5mから＋1.5mの範囲で調整できます。たとえば、フロントスピーカーを6mに設定した場合、1.5mから7.5mの範囲で調整できます。

7

▼ボタンを押して「Subwoofer」を選び、◀/▶ボタンで距離を設定する

！ヒント
フロントスピーカーで設定した距離の±1.5mの範囲で調整できます。

8

SETUPボタンを押す

すべてのスピーカーの設定が終わったら、SETUPボタンを押して設定を終了します。

！ヒント
本体のSETUPボタンとLISTENING/MULTI JOGダイヤルでも操作することができます。(☞44ページ)

ご注意
「1. SP Config（スピーカー環境）」の設定で、「No」または「None」を選択したスピーカーは、表示されません。

スピーカーの音量レベルを調整する（テストトーン）

各スピーカーからのテスト音量が同じに聞こえるように、それぞれのスピーカーの音量レベルを設定します。スタンバイ状態にしても記憶しています。
ミューティング中やヘッドホンを接続しているとき、マルチチャンネル再生時は、設定できません。

1

リモコンのAMPボタンを押してから、TEST TONEボタンを押す

左フロントスピーカーから「ザー」というテストトーンが出力されます。

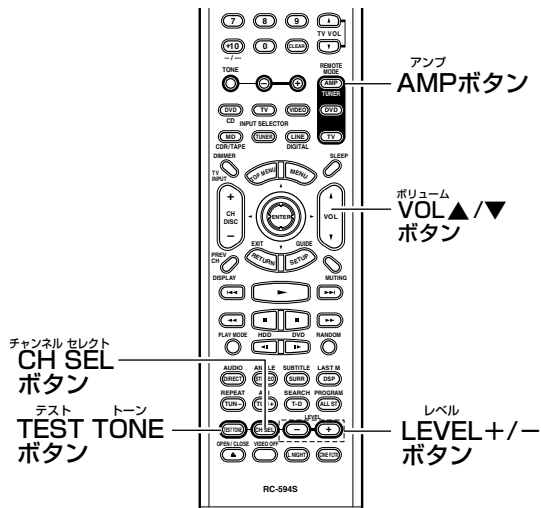
2

VOL▲/▼ボタンで音量を調整する

テストトーンは小さめなので良く聞こえる音量にVOL▲/▼ボタンで調整してください。

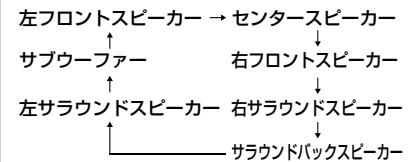
3

CH SELボタンでスピーカーを切り換え、LEVEL＋/－ボタンでテストトーンを調整する

すべてのスピーカーのテストトーンが同じに聞こえるように調整します。
- スピーカーは－12dB～＋12dB、サブウーファーは－15dB～＋12dBの範囲内で調整できます。

4

手順3をくり返し、接続したすべてのスピーカーのテストトーンを調整する

テストトーンは次の順で出力されます。

左フロントスピーカー → センタースピーカー → 右フロントスピーカー → 右サラウンドスピーカー → サラウンドバックスピーカー → 左サラウンドスピーカー → サブウーファー → 左フロントスピーカー

- 「1. SP Config（スピーカー環境）」の設定で「No」または「None」を選択したスピーカーは設定できません。

5

TEST TONEボタンを押す

設定が終了します。

ご注意

手順**2**でいつも聞く音量よりも大きくした場合は、VOL▼ボタンで音量を戻してください。

！ヒント

本体のSETUPボタンとLISTENING/MULTI JOGダイヤルを使って、「3. Level Cal」設定からも調整できます。
(☞44ページ)

スピーカーの音量を一時的に調整する

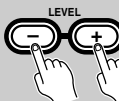
再生中、一時的に各スピーカーの音量をお好みに調整することもできます。本機をスタンバイ状態にすると解除されます。

1

リモコンのAMPボタンを押してから、CH SELボタンを押して、調整するスピーカーを選ぶ

ご注意

「1. SP Config（スピーカー環境）」の設定で「No」または「None」を選択したスピーカーは調整できません。

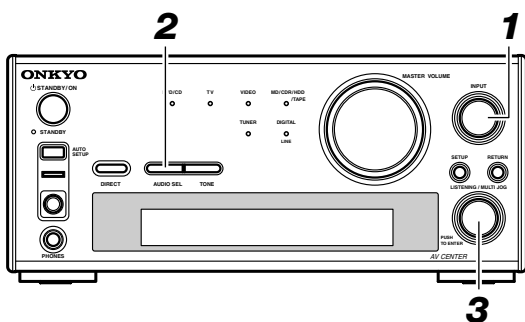
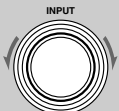
2

LEVEL＋/－ボタンを押して、音量を調整する

スピーカーは－12dB～＋12dB、サブウーファーは－15dB～＋12dBの範囲で調整できます。

音声入力の設定をする

入力モードをDTS、PCM、アナログに固定する

DTSやPCM信号の再生中にノイズや曲間の頭切れが気になる場合やアナログ音声を楽しみたいときは、以下の設定をおすすめします。

1

本体のINPUTつまみを回して、設定する機器を選ぶ

DVD/CD、TVまたはLINE入力の設定ができます。

2

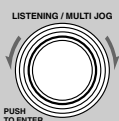
AUDIO SEL

本体のAUDIO SELボタンをくり返し押して、「Auto」を表示させる

このとき、「Analog」を表示させると、アナログに固定されます。

Analog（DVD/CDまたはTVのみ）：
アナログ音声を楽しむときに選択してください。デジタル音声が入力されても、アナログ音声を優先します。

- DVDのマルチチャンネル設定は、32ページをご覧ください。

3

「Auto」表示中（約3秒間）にLISTENING/MULTI JOGダイヤルを回して、入力モードを選ぶ

入力モードがDTSやPCMに固定されているときは、それら以外の信号が入ったときそれぞれのインジケーターが表示部に点滅します。

Auto（初期設定）：
入力される信号に適したデジタル信号を優先して再生します。デジタル信号が入力されていないときは、アナログ信号を再生します。

DTS：
AutoでDTS-CDを再生するときDTS信号を識別して読み取る間や、CDの早送り、早戻しをするときのノイズが気になる場合に選択してください。DTS以外の音声が入力されても音は出ません。

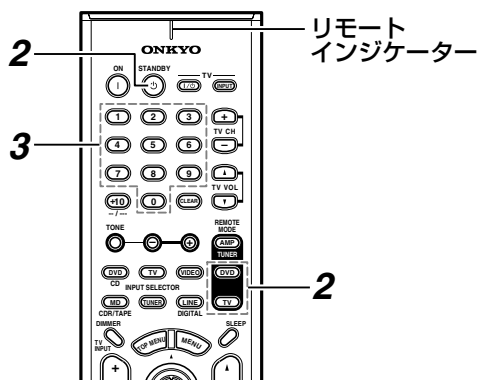
PCM：
AutoでCDなどのPCMの曲間で頭切れが気になる場合に選択してください。PCM以外の音声が入力されても音は出ません。

DTS対応のCDやLDを再生するときは、必ず「Auto」または「DTS」を選択してください。「PCM」を選択するとノイズが出力されます。

接続した製品を本機のリモコンで操作する

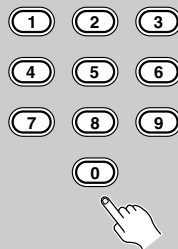
本機に付属のリモコン（RC-594S）で、他社の製品を操作することができます。操作するには、**他機（DVD、DVDレコーダー、テレビ）のリモコンコードを登録する必要があります。**

リモコンコードを登録する

他機のリモコンコードを本機のリモコンの「REMOTE MODEボタン（DVD、TV）」に登録すると、本機のリモコンで他機を操作することができます。
リモコンコード表は50ページをご覧ください。
「DVD」と「TV」にはそれぞれのカテゴリーから選んだリモコンコードが登録できます。
また、「DVD」にはDVDレコーダー（シャープ、ソニー、東芝、パイオニア、パナソニック製）のリモコンコードを登録することもできます。

DVDモードのご注意：
DVDモードは初期設定として、RI接続したいろいろな機器を操作できるようになっています。「DVD」に他機のコードやオンキヨーのコード「5002」を入力すると、DVDモードでのRI接続した機器の操作はできなくなります。

この場合、RI接続した機器はAMPモードでの操作をしてください。

1 登録する他機のメーカー別リモコンコード（4桁）を50ページのリモコンコード表で確かめる

2 登録したいREMOTE MODEボタンを押しながら、STANDBYボタンを押す

3 リモートインジケーターが点滅し終わってから30秒以内に、数字ボタンで4桁のリモコンコードを入力する

4 他機を操作する

登録した機器に向けて操作してください。

!ヒント

正しく動作しない場合は、もう一度リモコンコードを入力し直してください。複数のコードがある機器は、他のコードも試してください。

「DVD」ボタンの初期設定の戻しかた
「DVD」ボタンには、初期設定としてRI接続したいろいろなオンキヨー機器を操作できるコードが入力されています。初期設定に戻すときは、以下の操作をしてください。

1. DVD MODEボタンを押しながら、TV（I/⏻）ボタンを押します。
2. リモートインジケーターが点滅し終わってから、もう一度DVD MODEボタンを押すと、初期設定に戻ります。

リモコンを初期設定に戻すには
お買い上げ時と同じ状態に戻すには、以下の操作をしてください。

1. AMPボタンを押しながら、STANDBYボタンを押します。
2. リモートインジケーターが点滅し終わってから、もう一度AMPボタンを押すと、初期設定に戻ります。

リモコンコード表　*複数のコード番号があるときは、1つずつ登録し、機器に合った方を選んでください。*

DVD（DVDプレーヤー）

ブランド名	コード番号
アイワ	5010
インテグラ	5001, 5002
インテグラリサーチ	5001, 5002
Apex	5015, 5016
デノン	5017, 5020
日立	5009
日本ビクター（JVC）	5023
ケンウッド	5017
マグナボックス	5004, 5021
マランツ	5025, 5026
三菱	5005
オンキヨー	5002（RI接続していない、またはRI端子がない場合）
パナソニック	5011, 5017, 5020
フィリップス	5004, 5021, 5028
パイオニア	5006
プロスキャン	5003
RCA	5003
サンヨー	5012
ソニー	5007, 5013, 5018, 5029
トムソン	5022, 5024
東芝	5008, 5021
ヤマハ	5020
Xbox	5022

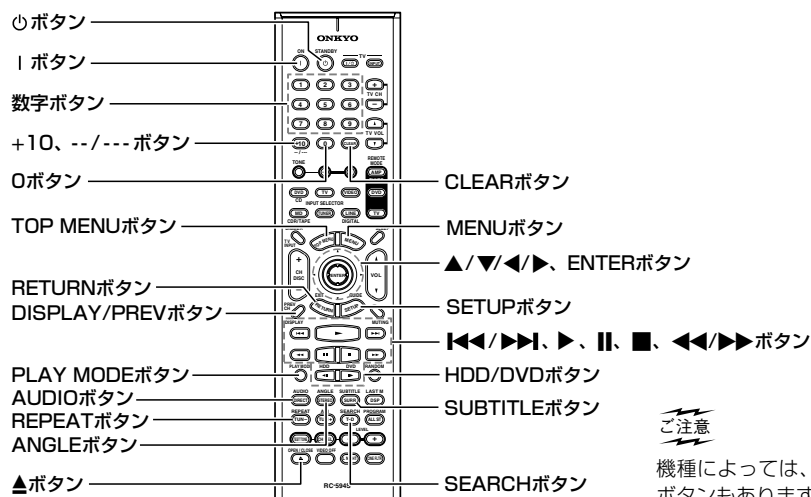
DVD（DVDレコーダー）

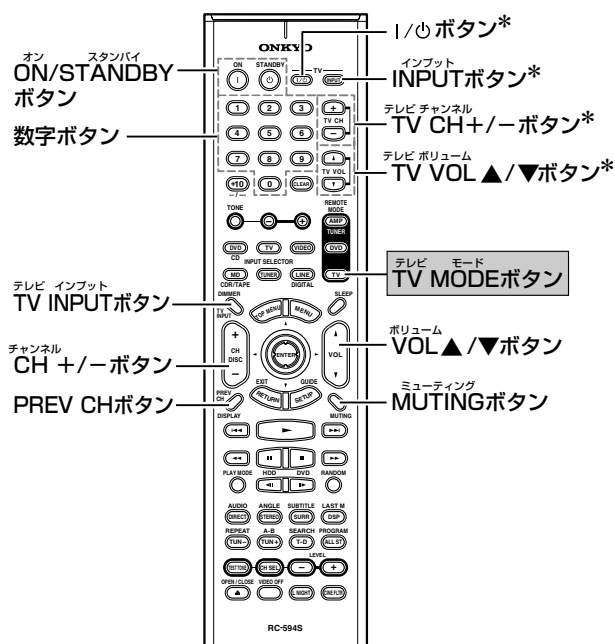
ブランド名	コード番号
シャープ	5033, 5034
ソニー	5035, 5036, 5037
東芝	5038, 5039, 5040
パイオニア	5030, 5031, 5032
パナソニック	5041. 5042, 5043

- 機器によっては、動作が異なる場合があります。
- 製品によっては、動作しない場合もあります。
- DVDプレーヤーの操作方法については、14ページをご覧ください。

TV（テレビ）

ブランド名	コード番号
富士通ゼネラル	1070
フナイ	1009, 1045, 1048, 1070
日立	1004, 1006, 1007, 1013 1027, 1038, 1062, 1063 1069
日本ビクター（JVC）	1007, 1012, 1013, 1015 1033
三菱	1004, 1005, 1006, 1008 1040, 1055, 1058
NEC	1003, 1004, 1005,1006
Orion	1029, 1043, 1048, 1049 1050, 1067, 1068
パナソニック	1003, 1012, 1014, 1031 1044, 1046, 1051, 1061 1062, 1069
フィリップス	1003, 1004, 1007, 1008 1014, 1018, 1019, 1020 1037, 1038, 1040, 1053 1059, 1060
パイオニア	1004, 1006, 1027, 1062
サムスン	1004, 1005, 1006,1007 1008, 1022, 1025, 1035 1045, 1047, 1052, 1056 1060, 1063, 1065
サンヨー	1004, 1010, 1017
シャープ	1004, 1006, 1007, 1021 1023, 1025, 1026
ソニー	1002, 1030, 1032, 1036 1054
トムソン	1066
東芝	1010, 1016, 1017, 1022 1024, 1039

各社DVDレコーダーのリモコンボタン対応表

ボタン RC-594S	シャープ	ソニー	東芝	パイオニア	パナソニック
I	電源	電源	電源	電源	電源
⏻	電源	電源	電源	電源	電源
数字ボタン（1〜9）	数字ボタン（1〜9）	数字ボタン（1〜9）	数字ボタン（1〜9）	数字ボタン（1〜9）	（1〜9）
＋10 −−/−−−	—	—	＋10	—	—
0	0	0	0	0	0
CLEAR	クリア	クリア	クリア	クリア	取り消し
DISPLAY PREV	画面表示	画面表示	表示	画面表示	表示切換
TOP MENU	DVDトップメニュー	トップメニュー	トップメニュー	トップメニュー	トップメニュー
MENU	DVDメニュー	メニュー	メニュー	メニュー	サブメニュー
RETURN	戻る	戻る	リターン	戻る	リターン
SETUP	終了	システムメニュー	初期設定	ホームメニュー	機能選択
▲	▲	▲	▲	▲	▲
▼	▼	▼	▼	▼	▼
◀	◀	◀	◀	◀	◀
▶	▶	▶	▶	▶	▶
ENTER	決定	決定	決定	決定	決定
⏮	前	前	スキップ	前	スキップ
▶	再生	再生	再生	再生	再生
⏭	次	次	スキップ	次	スキップ
◀◀	早戻し	早戻し	ピクチャーサーチ	早戻し	スロー/サーチ
⏸	静止	一時停止	一時停止	一時停止	一時停止
■	停止	停止	停止	停止	停止
▶▶	早送り	早送り	ピクチャーサーチ	早送り	スロー/サーチ
PLAY MODE	—	—	—	プレイモード	—
HDD	HDD	HDD	HDD	HDD	HDD
DVD	DVD	DVD	DVD	DVD	DVD
AUDIO	音声切換	音声	音声	音声	音声
ANGLE	アングル	アングル	アングル	アングル	—
SUBTITLE	字幕	字幕	字幕	字幕	—
REPRAT	外部入力/リピート	—	—	—	—
SEARCH	3桁入力/ダイレクト	—	サーチ	—	—
⏏	トレイ開/閉	開/閉	オープン/クローズ	開/閉	—

接続した製品を本機のリモコンで操作する

TVモード

1. TV MODEボタンを押す
2. 各操作ボタンを押す

＊のついたボタンは、どんなリモコンモードでもTV MODEボタンに登録したテレビを操作できます。

TV VOL ▲/▼	：テレビの音量調整（下記VOL▲/▼と同じ機能）
TV CH +/−	：チャンネル選択（下記CH+/−と同じ機能）
I/⏻	：TVの電源を入/切（下記ON/STANDBYと同じ機能）
INPUT	：テレビの入力切換（下記TV INPUTと同じ機能）

操作ボタン（リモコンコード記憶後）

ON/STANDBY	：テレビの電源ON/OFF
TV INPUT	：テレビの入力切換
0,1〜9	：数字ボタン
VOL ▲/▼	：テレビの音量調整
MUTING	：テレビのミューティング
CH +/−	：チャンネル選択
PREV CH	：前のチャンネルに戻る

困ったときは

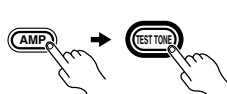
まず下記の内容を確認してみてください。接続した他機に原因がある場合もありますので、他機の取扱説明書も参照しながらあわせてご確認ください。
●文章の最後にある数字は参照ページ数です。

音声

音声が出力されない/小さい

- 接続コードのプラグは奥まで差し込んでください。
- 接続した機器の入力端子/出力端子に間違いがないか確認してください。
- スピーカーコードの+/−は正しく接続されているか、スピーカーコードの芯線部分が本機のスピーカー端子の金属部で固定されているか確認してください。（18）
- 入力が正しく選択できているか確認してください。（30）
- ボリューム位置を確認してください。本機は基本的にMin·1·2···78·79·Maxまで調整できます。一般のご家庭で50前後までボリュームを上げていても、正常な範囲です。
- 表示部に"MUTING"と表示されている場合はリモコンのMUTINGボタンを押して解除してください。（31）
- ヘッドホンが接続されているとスピーカーからの音声が出力されません。（31）
- 簡単スピーカー設定用のマイクが接続されていると、テスト音以外の音が出ません。（29）
- 接続した機器でのデジタル音声出力の設定を確認してください。DVD対応のゲーム機など、機器によっては初期設定がOFFになっていることがあります。
- リスニングモードによっては音声の出力されないスピーカーがあります。（37、38）
- 簡単スピーカー設定をもう一度行うか、手動でスピーカーの「有/無と大きさ」、「距離」、「音量」設定を行ってください。（28、29、43〜47）
- 入力モードの設定の確認を行ってください。「Multich」、「DTS」、「PCM」や「Analog」に固定されていると、それ以外の音声を出力しません。（32、48）

特定のスピーカーから音が出ない

テストトーンは出ますか？

リモコンのAMPボタンを押してからTEST TONEボタンを押して、接続したすべてのスピーカーから個別にテストトーンが出ているか確認してください。
もう一度TEST TONEボタンを押すと、テストトーンは止まります。

■表示部にスピーカーの表示は出るが、テストトーンが出ない

- 音の出ないスピーカーの接続が正しくない可能性があります。
  スピーカーコードの芯線部分が本機のスピーカー端子の金属部で固定されているか確認してください。
  ケーブルが折れ曲がったり損傷していないか確認してください。

■テストトーンも出ず、表示部にも表示されない

- スピーカーの設定が正しくない可能性があります。
  もう一度簡単スピーカー設定を行ってください。（28、29）

■テストトーンは出るが、音が出ない

- 再生するソースによっては音が出にくいスピーカーがあります。
- 低音が少ない、または入っていないソフトを再生している場合は、サブウーファーから音が出ません。

リスニングモードによっては音が出ないスピーカーがあります

センタースピーカーからしか音が出ない
- テレビやAM放送などモノラル音源を再生するときに、リスニングモードをドルビープロロジックII、ドルビープロロジックIIxまたはシアターディメンショナルにすると、センタースピーカーに音が集中します。

センタースピーカーやサラウンドスピーカーから音が出ない
- リスニングモードが「Orchestra」のときは、センタースピーカーから音が出ません。
- リスニングモードが「Stereo」、「Direct」のときは、センタースピーカーやサラウンドスピーカーから音が出ません。

サラウンドバックスピーカーから音が出ない
- 「Dolby Digital/DTS/AAC」の設定を「On」または「Auto」にしてください。

サブウーファーから音が出ない
- リスニングモードが「Direct」になっていると、サブウーファーから音が出ません。

困ったときは

希望する信号フォーマットで聴くことができない（Dolby Digital、DTSやAACのフォーマットにならない）

Dolby Digital、DTSやAACの音声を聴くためには、デジタル接続が必要です。

- 入力モードの設定の確認を行ってください。「Multich」、「DTS」、「PCM」や「Analog」に固定されていると、それ以外の音声を出力しません。（32、48）
- 接続した機器でのデジタル出力の設定を確認してください。DVD対応のゲーム機など、機器によっては初期設定でデジタル出力がOFFになっていることがあります。

ノイズが出る

- オーディオ用ピンコードと電源コードなどを束ねると音質が劣化しますので避けてください。
- 接続コードが影響を受けている可能性がありますので、接続コードの位置を動かしてみてください。

多重音声を切り換えできない

- 本機ではPCM信号の多重音声は切り換えできません。再生機器側で切り換えを行ってください。特に、DVDレコーダーで録画した音声多重放送は、デジタル接続の場合、再生機器側で主音声・副音声を切り換えても、切り換わらない場合があります。この場合、本機とアナログ接続をし、本機の入力をアナログにしてから、DVDレコーダー側で音声の切り換えを行ってください。

レイトナイト機能が働かない

- 再生ソースがドルビーデジタルか確認してください。（40）

マルチチャンネル音声が出力されない

- マルチチャンネル対応のDVDプレーヤーを使用しているか確認してください。
- 入力がDVDのとき「AUDIO SEL」ボタンを押して、音声信号の種類を「Multi Auto」または「Multich」にしてください。（32）

DTS信号について

- DTS信号を再生しているときは、本機表示部のDTSインジケーターが点灯します。プレーヤー側での一時停止やスキップ操作時に発生するノイズを防ぐため、再生が終了してもDTSインジケーターが点灯したままになります。このため、DTS信号から急にPCM信号に切り換わるタイプのソフトは、PCMがすぐに再生されない場合があります。このときはプレーヤー側で再生を約3秒以上中断し、再び再生を行うと正常に再生されます。
- 一部のCDまたはLDプレーヤーでは、本機とデジタル接続をしても正しくDTS再生ができない場合があります。出力されているDTSデーターに何らかの処理（出力レベル調整、サンプリング周波数変換、周波数特性変換など）が行われていると、本機が正しいDTSデーターとみなすことができず、ノイズを発生することがあります。
- DTS対応ディスクを再生しているときにプレーヤー側でポーズやスキップなどの操作をすると、ごく短時間ノイズが発生する場合がありますが、これは故障ではありません。

リモコン

リモコン操作ができない

- 電池の極性（＋/－）が表示通り正しく入っているか確認してください。（8）
- 電池を2本とも新しいものと交換してみてください。リモコン電池が消耗していると、一部のボタンが働かない場合があります。（8）
- リモコンと本体の間が離れすぎていないか、リモコンと本体のリモコン受光部の間に障害物がないかを確認してください。
- 本体のリモコン受光部に強い光（インバーター蛍光灯や直射日光）が当たっているとリモコン操作ができない場合があります。
- オーディオラックのドアに色付きガラスが使用されていると正常に機能しない場合があります。
- リモコンのモード切り換えが正しく選択されているか確認してください。（12～16）

オンキヨー製の他機器の操作ができない

- オンキヨー製他機器とRIケーブルが正しく接続されているか確認してください。
- RIケーブルを接続している場合、オーディオ用ピンコードも接続してください。（RIケーブルだけでは正しく連動しません）
- リモコンのモード切り換えが正しく選択されているか確認してください。（12～16）
- 入力表示が正しく設定されているか確認してください。（例：MD/CDR/TAPE/HDD端子にCDレコーダーやテープデッキを接続した場合）（29）
- オンキヨー製他機器を操作するときは、リモコンを本機に向けて操作してください。
- 例えば、すでにMDレコーダーとCDレコーダーを持っている場合、どちらか片方しかRI動作させることができません。どちらかをMD/CDR/HDD/TAPE IN/OUT端子以外の端子に接続することはできますが、その機器はRI接続してもRI動作はしません。RI動作には入力表示が接続した機器と合っていることが必要です。

他メーカー機器の操作ができない

- 他機器との接続が正しいか確認してください。
- もう一度リモコンコードを入力し直してください。複数のコードがある場合は、他のコードも試してください。
- リモコンのモード切り換えが正しく選択されているか確認してください。
- 他メーカー機器を操作するときは、リモコンをそれぞれの機器に向けて操作してください。
- 製品によっては動作しない場合もあります。

録音

録音ができない

- 録音機器側で、デジタルやアナログなどの録音入力切り換えが正しくできているか確認してください。

その他

ヘッドホンを接続すると音が変わる/表示が変わる

- 「Direct」以外のリスニングモードを選択している場合は、ヘッドホンを接続すると自動的に「Stereo」になります。（31）

スピーカーの距離設定が希望通りにならない

- 設定する数値がホームシアターに適した数値に矯正されることがあります。（46）

表示が出ない

- 表示部が消灯しているときは、リモコンのDIMMERボタンを押してください。（31）

音量調整が79以下で終わる

- 簡単スピーカー設定や各スピーカーの音量レベルの調整を行うと、音量最大値が変わります。

マイク端子について

- 前面パネルに装備されているマイク端子は、簡単スピーカー設定用です。付属の簡単スピーカー設定用マイク以外は絶対に接続しないでください。

メモリー保持について
本機には、メモリー保持用の予備電源装置が内蔵されています。これは、お客様が行ったスピーカーの設定や音響効果に関する設定などを停電時などに保護するためのものです。本機の電源プラグを抜いた状態でメモリーが保持できるのは約2週間です。

本機はマイクロコンピューターにより高度な機能を実現していますが、ごくまれに外部からの雑音や妨害ノイズ、また静電気の影響によって誤動作する場合があります。そのようなときは、電源プラグを抜いて、約5秒後にあらためて電源プラグを差し込んでください。

製品の故障により正常に録音・録画できなかったことによって生じた損害（CDレンタル料等）については保証対象になりません。大事な録音をするときは、あらかじめ正しく録音･録画できることを確認の上、録音･録画を行ってください。

すべての内容をお買い上げ時の設定内容に戻すには
電源を入れた状態でAUDIO SELボタンを押したままSTANDBY/ONボタンを押してください。
表示部に「Clear」が表示され、スタンバイ状態になります。

用語集

音声フォーマット

サラウンド（Surround）
ドルビーデジタルやDSPの音声モードなどを用いた臨場感のある音の総称。

ドルビーデジタル（Dolby Digital）
ドルビー社によって開発されたデジタルマルチチャンネル音声規格。モノラルから5.1チャンネルまでに対応しています。プログラム間でセリフの平均レベルを一定に保つダイアログノーマライゼーション、視聴環境の制約に対応してダイナミックレンジを調整するダイナミックレンジ圧縮、スピーカーの数に合わせて出力チャンネル数を最適化するダウンミックスなど数々の機能が採り入れられています。DVD-Videoの標準音声、米国DTVの標準音声として採用されています。

ドルビーデジタルEX（Dolby Digital EX）
映画館の壁面に配置されるサラウンドチャンネルスピーカー、左右側面と背面の3つのセクション（左サラウンド、右サラウンド、バックサラウンド）に分割します。これによりサラウンドの空間表現力、定位感が高められ、360度の回転や頭上を通過するような移動音効果をよりリアルに体感できます。バックサラウンドチャンネルは左サラウンド、右サラウンドに振り分けることもできるため、通常の5.1チャンネルとして、既存のドルビーデジタル環境で再生することが可能です。

ドルビープロロジックII（Dolby Pro Logic II）
ドルビー社によって開発されたマトリックスタイプのサラウンドデコード技術。PCM96kHz以外のあらゆるステレオ音源を5.1チャンネルであるかのような立体音場で楽しむことができます。映画の再生に適した「ムービー」モード、音楽再生に適した「ミュージック」モード、ゲーム機などに適した「ゲーム」モードがあります。

ドルビープロロジックIIx（Dolby Pro Logic IIx）
ドルビープロロジックIIをさらに改良したマトリックスデコード技術。PCM96kHz以外のあらゆるステレオ音源を6.1チャンネル再生するため、かってないほど自然でなめらかなサラウンド体験が得られます。映画の再生に適した「ムービー」モード、音楽再生に適した「ミュージック」モード、ゲーム機などに適した「ゲーム」モードがあります。

DTSデジタルサラウンド（DTS Digital Surround）
米国のDTS社が開発したデジタルサラウンドフォーマット。コヒレントアコースティックス符号化と呼ばれる算法を使用し、圧縮率は通常4:1程度と比較的低くなっています。映画館ではフィルムにプリントされたタイムコードに同期してCD-ROMに記録された音声が再生されます。

DTS-ES エクステンディッドサラウンド (DTS-ES Extended Surround)
従来のDTS5.1chシステムにセンターバックサラウンド（CS）チャンネルを加えたもので、かつてない音像・定位感を再現します。DTS-ESには「DTS-ESディスクリート6.1ch」と「DTS-ESマトリックス6.1ch」の2種類があり、どちらも下位互換性を有しているため従来のDTS5.1ch対応機器での再生も可能です。

DTS-ES　ディスクリート6.1 (DTS-ES Discrete 6.1)
5.1チャンネル音声データに拡張データとしてセンターサラウンドチャンネル音声データを付加し、この方式に対応したDTSデジタルサラウンドデコーダーによって完全に独立した6.1チャンネル音声を再生するDTSシステム。

DTS-ES　マトリックス6.1 (DTS-ES Matrix 6.1)
映画館におけるDTS-ESと同様に、あらかじめ左右サラウンドチャンネルにマトリックスエンコードされたセンターバックサラウンドチャンネルを、マトリックスデコーダーを使って復元して6.1チャンネルとする方式のDTSシステム。マトリックスデコーダーとしてNeo:6に対応した機器を使用します。

DTS96/24
DTS96/24フォーマットソースに記録された拡張用データを使用して、5.1チャンネル再生するDTSシステム。サンプリング周波数96kHz、量子化ビット数24ビットの高音質で、きめ細やかな音声を再現します。

Neo:6
DTS社によって開発された、デジタル・アナログを含む全ての2チャンネルソースを6チャンネルサラウンドにするマトリックスデコード技術。映画に適した「シネマ」モードと音楽に適した「ミュージック」モードが用意されています。また、DTS-ES マトリックス 6.1のセンターサラウンドチャンネル信号の抽出にも使用されます。

MPEG-2 AAC
AAC(Advanced Audio Coding)は、AT&T社、ドルビー社、フラウンホーファー・インスティテュート・フォー・インテグレーティド・サーキット（Fraunhofer IIS）、そしてソニー株式会社の4社の高品質マルチチャンネル音声符号化のための最先端技術を組み合わせたもので、ISOとIECの共同管轄の下に、MPEG-2規格の一部として規格化された音声圧縮符号化方式です。
従来のＭＰＥＧ音声との後方互換性がないので、従来のMPEG音声デコーダーでは再生できません。わが国のデジタルテレビ音声方式として採用されています。

音声

アナログ
一般的な再生機器に装備されているL/R（白/赤）音声出力端子からの音声を、アナログ音声と呼びます。

デジタル
デジタル端子は一般的に、CDプレーヤー、DVDプレーヤーなどに装備されています。
ドルビーデジタルやDTSなどのデジタル音声を聴くときは、デジタル端子と接続しておく必要があります。

光（OPTICAL）デジタル
DVDやCDなどのデジタル信号を入出力するための信号で光ケーブルを使用して接続します。
アナログよりも再生や録音がさらに高品位になります。接続する機器にOPTICAL端子がある場合に使用できます。

サンプリング周波数
アナログ信号をデジタル信号に変換する時の精度。44.1ｋHzは1秒間に44100回、96ｋHzは1秒間に96000回アナログ信号を読みとってデジタルに変換します。

ダイナミックレンジ
信号を正しく変換する最大のレベルと、雑音等機器の性質で制限させる最小レベルの差。

LFE（Low Frequency Effect）
ドルビーデジタルやDTSの低周波数効果音のこと。
一般にディスクなどの信号に入っているとサブウーファーが効果的に働きます。

5.1chサラウンド
視聴位置前方に設置するセンタースピーカー1つ、フロントスピーカー2つ、横または後方に設置するサラウンドスピーカー2つで5ch（チャンネル）、サブウーファーは他のスピーカーよりも再生できる音域が10分の1のため、この6本のスピーカーを使って再生することを5.1chサラウンドと言います。

6.1chサラウンド
視聴位置前方に設置するセンタースピーカー1つ、フロントスピーカー2つ、横または後方に設置するサラウンドスピーカー2つ、真後ろに設置するサラウンドバックスピーカー1つで6ch（6チャンネル）、サブウーファーは他のスピーカーよりも再生できる音域が10分の1のため、この7本のスピーカーを使って再生することを6.1chサラウンドと言います。

主な仕様

総合

電源・電圧：AC100V・50/60Hz
消費電力：75W
待機時電力：0.9W
最大外形寸法：205（幅）×91（高さ）×358（奥行）mm
質量：4.1kg

●音声入力：
デジタル：3（光）（DVD/CD、TV、LINE）
アナログ： 5
（DVD/CD、TV、TUNER、VIDEO、MD/CDR/HDD/TAPE）
マルチチャンネルアナログ：5.1ch

●音声出力：
アナログ：2（VIDEO、MD/CDR/HDD/TAPE）
サブウーファープリ出力：1
マルチチャンネルプリ出力：3
スピーカー出力：3
ヘッドホン出力：1（ミニプラグ）

アンプ（音声）部

定格出力：
全てのチャンネル（2チャンネル駆動時）
25W 4Ω 1kHz、全高調波歪率0.2%以下
17W 8Ω 1kHz、全高調波歪率0.2%以下
実用最大出力：
全てのチャンネル（2チャンネル駆動時）
35W（4Ω、JEITA）
全高調波歪率：0.2%（定格出力時）
ダンピングファクター：フロント、8Ω負荷時で80
入力感度/インピーダンス：
LINE：200mV/47kΩ
出力電圧/インピーダンス：
REC OUT：200mV/470Ω
周波数特性：
10Hz〜100kHz：+1dB/−3dB（ダイレクトモード）
トーンコントロール最大変化量：
Bass：±12dB（100Hz時）
Treble：±12dB（20kHz時）
SN比：
100dB（LINE、IHF-A）
スピーカー適応インピーダンス：4Ω〜16Ω

※仕様および外観は性能向上のため予告なく変更することがあります。

修理について

■保証書

この製品には保証書を別途添付していますので、お買い上げの際にお受け取りください。
所定事項の記入および記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。
保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

■調子が悪いときは

意外な操作ミスが故障と思われています。
この取扱説明書をもう一度よくお読みいただき、お調べください。本機以外の原因も考えられます。ご使用の他のオーディオ製品もあわせてお調べください。それでもなお異常のあるときは、電源プラグを抜いて修理を依頼してください。

修理を依頼されるときは、下の事項をお買い上げの販売店、または付属の「オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内」記載のお近くのオンキヨー修理窓口までお知らせください。

- ▶ お名前
- ▶ お電話番号
- ▶ ご住所
- ▶ 製品名　SA-907FX
- ▶ できるだけ詳しい故障状況

■オンキヨー修理窓口について

詳細は付属の「オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内」をご覧ください。

■保証期間中の修理は

万一、故障や異常が生じたときは、商品と保証書をご持参ご提示のうえ、お買い上げの販売店またはお近くのオンキヨー修理窓口へご相談ください。詳細は保証書をご覧ください。

■保証期間経過後の修理は

お買い上げ店、またはお近くのオンキヨー修理窓口へご相談ください。修理によって機能が維持できる場合はお客様のご要望により有料修理致します。

■補修用性能部品の保有期間について

本機の補修用性能部品は、製造打ち切り後最低8年間保有しています。この期間は経済産業省の指導によるものです。
性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。保有期間経過後でも、故障箇所によっては修理可能の場合がありますのでお買い上げ店、またはお近くのオンキヨー修理窓口へご相談ください。

ご購入されたときにご記入ください。
修理を依頼されるときなどに、お役に立ちます。

ご購入年月日： 　　　年　　月　　日
ご購入店名：
Tel.　　　(　　)
メモ：

ONKYO®

オンキヨー株式会社

本社　大阪府寝屋川市日新町2-1　〒572-8540

ONKYO HOMEPAGE
http://www.jp.onkyo.com/

製品のご使用方法についてのお問い合わせ先：カスタマーセンター
ナビダイヤル ☎ 0570(01)8111（全国どこからでも市内通話料金で通話いただけます）
または ☎ 072(831)8111（携帯電話、PHSから）

Printed in Japan
G0409-1

SN 29343884

29343884